

基本戦略1 知る 基盤となる情報の継続的な収集・整備

- I 個別の事業ごとの実施状況
1. 生物多様性に関する情報の収集・発信の体制構築
1) 情報の収集・発信の核となる体制の構築

事業・取組	細事業	事業・取組の内容(概要)	実施エリア	R1年度の実施状況	R2年度の実施予定	R1事業費 (千円)	R2予算内示額 (千円)	課題・今後の見通し	今後のスケジュール(予定)					数値目標 (別途あれば)	局	課	備考
									H28	H29	H30	R1	R2				
自然環境 保全事業	生物多様性保全推進経費	環境共生課:情報の収集・発信の核となる体制の構築等(庁内への定期的な関連調査の照会とデータ提供依頼、データベースの整理) 博物館:生物等に関わる専門的調査や助言及び関連論文等の収集 環境総合センター:地域の生物多様性や環境問題についての体験学習による情報発信等 動植物園:生物の展示や解説、また絶滅危惧種の域外保全の取組等を通して、熊本の生物多様性に関する普及啓発・情報発信等。	熊本市全域	・庁内の関係各課に対して、関連事業の進捗状況調査を実施した。 ・熊本博物館、環境総合センター、動植物園の4課で集まり、生物多様性の推進に向けた協議の場(4課連携プロジェクト)での協議を継続し、生物多様性に関する知識や環境教育の手法に関するスキル向上を目的とした担当者研修を実施した。 ・熊本の自然環境や市民活動に関する情報発信の拠点として、多くの人が訪れる熊本市動植物園(動物資料館)に、生物多様性情報コーナーを設置(常設)。	・庁内の関係各課に対して、関連事業の進捗状況調査を実施予定。 ・熊本博物館、環境総合センター、動植物園の4課で集まり、生物多様性の推進に向けた協議の場(4課連携プロジェクト)での協議を継続し、生物多様性に関する知識や環境教育の手法に関するスキル向上を目的とした担当者研修を実施予定。 ・熊本の自然環境や市民活動に関する情報発信の拠点として、多くの人が訪れる熊本市動植物園(動物資料館)に、生物多様性情報コーナーを設置(常設)。	0	0	・4課連携プロジェクトでは生物多様性の日に向けたイベントの協議が中心となっていたため、今後、リニューアルをした熊本博物館や動植物園マスタープランの策定等を踏まえ、情報の蓄積・収集・発信の手法等を含めた体制の検討が必要。 ・4課連携プロジェクト以外の部署(区役所等)との連携・各部署での取組に関する情報共有の推進が課題。 ・今後、生物多様性情報コーナーの中身を充実させていく。	継続	→				無	環境局 経済観光局 教育委員会	環境共生課 環境総合センター 動植物園 熊本博物館	「学び、つながる」再掲
			江津湖一帯 金峰山系	江津湖に生息する生物のモニタリングと情報収集を実施する。 5月から12月の間、金峰山某所で自動撮影装置による哺乳類モニタリングを実施した。	江津湖に生息する生物のモニタリングと情報収集を実施する。 5月から11月の間、金峰山某所で自動撮影装置による哺乳類モニタリングを実施する。	0	0	江津湖に関しては、環境共生課と協働して実施する魚類調査に加え、他の生物の調査や情報収集は随時実施していく。 金峰山に関しては、これまでどおり主に自動撮影装置を用いて実施する。	継続	→				無	教育委員会	熊本博物館	「学び、つながる」再掲

- 2) 市民が活用できる情報の収集・共有方法(いきものマップなどの地図化、ウェブサイトでの発信等)の検討

事業・取組	細事業	事業・取組の内容(概要)	実施エリア	R1年度の実施状況	R2年度の実施予定	R1事業費 (千円)	R2予算内示額 (千円)	課題・今後の見通し	今後のスケジュール(予定)					数値目標 (別途あれば)	局	課	備考
									H28	H29	H30	R1	R2				
		独自の環境ポータルサイトを立ち上げ、市民への情報提供のほか、情報把握等ができる環境整備を行う。	熊本市全域	環境局のサイトのさらなる充実を図り、閲覧者の利便性向上とアクセス数アップを目指す。 (広報課にて保守経費:149千円/年)	環境局のサイトのさらなる充実を図り、閲覧者の利便性向上とアクセス数アップを目指す。	0	0	環境局のサイトのさらなる充実を図り、閲覧者の利便性向上とアクセス数アップを目指す。	休止	→				無	環境局	環境政策課	

2. 生物多様性に関する情報の整理・分析
1) 「みんなで未来に残したい熊本市の自然環境」に関する既存情報の整理・分析

事業・取組	細事業	事業・取組の内容(概要)	実施エリア	R1年度の実施状況	R2年度の実施予定	R1事業費 (千円)	R2予算内示額 (千円)	課題・今後の見通し	今後のスケジュール(予定)					数値目標 (別途あれば)	局	課	備考
									H28	H29	H30	R1	R2				
※検討中		既存文献の収集・データの把握(H26年度に実施した基礎調査をベースに新規情報については、専門家の活用、進捗管理における庁内への照会等の中で収集を行うなど)	熊本市全域	検討中。	収集した情報の蓄積や発信の手法等を含めた体制を検討する。	0	0	収集した情報の蓄積や発信の手法等を含めた体制の検討が必要。	－	検討	→			無	環境局	環境共生課	

- 2) 絶滅危惧種(熊本県のレッドリスト掲載種)の生息・生育情報の整理

事業・取組	細事業	事業・取組の内容(概要)	実施エリア	R1年度の実施状況	R2年度の実施予定	R1事業費 (千円)	R2予算内示額 (千円)	課題・今後の見通し	今後のスケジュール(予定)					数値目標 (別途あれば)	局	課	備考
									H28	H29	H30	R1	R2				
※検討中		県との連携、専門家会合(ネットワーク)の活用、市民情報との連動。	熊本市全域	検討中。	専門家会合で収集した情報の蓄積や発信の手法等を含めた体制を検討する。	0	0	情報の整理は必要だが、優先順位を付け、取組を進めていく。特に、絶滅危惧種に関する情報の取扱いについて、検討が必要。	－	検討	→			無	環境局	環境共生課	

- 3) 特に対策が必要な侵略的外来種についての市内における分布、新たな侵入情報の収集

事業・取組	細事業	事業・取組の内容(概要)	実施エリア	R1年度の実施状況	R2年度の実施予定	R1事業費 (千円)	R2予算内示額 (千円)	課題・今後の見通し	今後のスケジュール(予定)					数値目標 (別途あれば)	局	課	備考
									H28	H29	H30	R1	R2				
自然環境 保全事業	自然環境 保全経費	特定外来生物のアライグマによる被害防止を目的とした分布の把握及び侵入監視のための生息調査及び情報収集	熊本市全域	・自動撮影カメラによる生息状況調査を実施(R1年7月～R2年2月)し、北区で15例生息が確認された。加えて市民等からの通報により3例生息が確認された。 ・生息が確認された地点には箱わなを設置し、R1年11月に1頭(成獣・オス)を捕獲した。 ・市ホームページへのアライグマに関する記事掲載等により、市民への周知と情報収集を実施した。 ・周辺地域(玉東町・玉名市、宇土市・宇城市)と連携し、調査状況や捕獲状況等の情報を共有した。 ・市民からの相談や情報提供については、必要に応じ、鳥獣対策室と連携した対応を行った。 ・熊本市及び近隣市町の行政職員や捕獲従事者(猟友会等)を対象としたアライグマ防除講習会を2回開催した。 ・アライグマ防除に関する会議や講習会等に参加し、情報収集を行った。	・引き続き、自動撮影カメラによる生息状況調査と、確認された地点においては箱わなによる捕獲調査を実施する。 ・市ホームページへの記事掲載やチラシ等、イベントでの展示等により、市民への周知と情報収集を行う。 ・周辺地域(特に県北地域)でのアライグマ確認事例が増加していることから、周辺自治体との連携した調査や情報共有等、連携体制の構築に努める。 ・市民からの相談や情報提供については、必要に応じ、関係部署と連携した対応を行う。 ・アライグマ防除に関する会議や講習会等に参加し、情報収集に努める。	2,172	2,002	・市内(特に北区植木町)での生息確認件数が増加しており、生息数の増加、分布の拡大及びそれに伴う被害の発生が懸念されるため、今後も継続して監視を行う必要がある。 ・ホームページやイベント等での周知や情報収集を行うと共に、関係機関と連携し、市民からの通報に対し、柔軟に対応できるよう防除体制を引き続き検討する。 ・研究機関や活動団体、学校、地域などと連携した、より広い情報収集体制の構築に努める必要がある。 ・周辺地域(特に県北地域)での生息確認が増加しており、連携した情報共有・防除体制の構築が課題である。	検討	講習会実施・監視体制構築	実施	→		無	環境局	環境共生課	

自然環境 保全事業	自然環境 保全経費	スバルティナ・ヒアリ・クリ ハリス等の特定外来生物に ついて、分布情報の把握 及び市民からの相談対応	熊本市全 域	・スバルティナについては、 対策協議会への参加や現 地確認にて分布状況を把 握した。 ・ヒアリについては、生活衛 生課及び熊本博物館と連 携した市民相談対応及び 情報収集を行った。その他 の特定外来生物について の市民からの相談や情報 提供については、必要に応 じ、関係部署と連携した対 応を行った。 ・熊本港において、トラップ 設置によるツマアカスズメ バチの生息調査（侵入監視） を実施した。 →ヒアリ、ツマアカスズメバ チ共に侵入は確認されな かった。	・スバルティナについては、 引き続き対策協議会への 参加や現地確認にて分布 状況を把握する。 ・ヒアリについては、引き続 き生活衛生課及び熊本博 物館と連携した市民相談 対応及び情報収集を行う。 その他の特定外来生物に ついての市民からの相談 や情報提供については、必 要に応じ、関係部署と連 携した対応を行う。 ・熊本港において、トラップ 設置によるツマアカスズメ バチの生息調査（侵入監視） を継続する。	0	0	引き続き侵入監視を行うと 共に、市民からの通報に対 し、関係機関と連携した対 応を行う。	検討	実施					無	環境局	環境共生 課	
安定した農業 生産・集 出荷の 推進及び鳥獣 による 市民への直接 の被害 防止	農作物 鳥獣被害対策 事業、鳥獣被害 対策事業（生活被害 対策）	農作物被害や生活被害を 及ぼすイノシシをはじめと した鳥獣類の駆除のほか、 県や他市町村、環境局と 連携しクリハラリスやア ライグマなどの外来生物の 侵入を監視。特に、アライ グマの生息が確認されて いる地区においては、農 業者や関係機関の普及員、 営農指導員、駆除隊と連 携し、目撃情報や疑わし き被害などの情報収集に 努め、監視体制の構築を 図る。	熊本市 全域	アライグマについては、環 境局が取組む生息状況調 査を注視するとともに、農 業者、農業団体、駆除隊 などに対して、特徴・見分 け方等を周知し、発見時 の情報提供を呼びかけた。 また、目撃情報や疑わし き被害が寄せられた場合 は、環境局と連携し、現 地確認・調査等を実施し た。 鳥獣被害対策については、 今後も地域の農区や自治 会、住民を対象とした勉 強会等を開催し、鳥獣に 対する知識を深めること で、集落や住宅地に鳥獣 が出没しない環境を構築 し、地域ぐるみの対策に 取り組んだ。加えて、駆 除隊と連携・協力し、鳥 獣の捕獲による個体数管 理に取り組んだ。	アライグマについては、環 境局が取組む生息状況調 査を注視するとともに、農 業者、農業団体、駆除隊 などに対して、特徴・見分 け方等を周知し、発見時 の情報提供を呼びかける。 また、目撃情報や疑わし き被害が寄せられた場合 は、環境局と連携し、現 地確認・調査等を実施す る。 鳥獣被害対策については、 今後も地域の農区や自治 会、住民を対象とした勉 強会等を開催し、鳥獣に 対する知識を深めること で、集落や住宅地に鳥獣 が出没しない環境を構築 し、地域ぐるみの対策に 取り組む。加えて、駆除 隊と連携・協力し、鳥獣 の捕獲による個体数管理 に取り組む。	9,310	9,310	今後も引き続き、アライグ マの目撃情報や生息痕跡 等の収集に努め、関係部 局との情報共有を図り、 被害防止対策を進める。 住宅地、通学路等におけ るイノシシやシカ等の野 生動物の出没件数が増加 していることから、今後 も引き続き関係機関と連 携し被害未然防止対策の 普及・啓発に努めるとと もに、捕獲による個体数 管理に取り組む。	継続					無	農水局	農業支 援課鳥 獣対策 室	「学び、つ ながる」 再掲	

3. 生物多様性に関するモニタリング・調査の実施
1) 既存のモニタリング等の継続的な実施（水質・水量モニタリング調査等）

事業・取組	細事業	事業・取組の内容(概要)	実施エリア	R1年度の実施状況	R2年度の実施予定	R1事業費 (千円)	R2予算内示額 (千円)	課題・今後の見通し	今後のスケジュール(予定)					数値目標 (別途あれば)	局	課	備考
									H28	H29	H30	R1	R2				
広域交通 拠点整備 促進事業	熊本港関 係経費	・熊本港単県港湾調査(干 潟生物調査)委託 熊本港建設に伴い、周辺 海域の漁場環境や水産生 物の生息分布の変化を把 握するため調査を実施して いる。	熊本港周 辺海域	引き続き、既往調査地点 の水質調査、底質調査、プ ランクトン調査、データ解析 等を実施予定。	引き続き、既往調査地点の 水質調査、底質調査、プ ランクトン調査、データ解析 等を実施予定。	2,323	2,323	周辺海域の漁場環境や水 産生物の生息分布の変化 を把握することにより、工 事及び自然的要因との関 わりを明らかにし、今後の 熊本港整備事業に役立て るため、継続的に調査を行 う。	継続					無	都市建設 局	交通政策 課	
公共工事 等整備に あたって の環境調 査	広域河川 改修経費	公共工事等整備にあたっ ての事前環境調査の実施	熊本市全 域	—	—	0	0	新規事業の計画段階では 河川環境調査を行い、河 川の特性・環境に配慮した 整備計画を立案する。	随時					無	都市建設 局ほか	東部土木 センター 河川公園 整備課	
水前寺江 津湖公園 外来植物 分布調査	公園維持 管理経費 (政策) (H25年 度～H27 年度)	水前寺江津湖公園の湖面 及び水辺に繁茂する外来 植物について現況把握の ための調査を実施。(H25 年度～H27年度)	水前寺江 津湖公園 区域の水 面	—	—	0	0	H25、26、27の実施を踏ま え、今後は経過観測を行 う。	経過 観測					無	都市建設 局	東部土木 センター 河川公園 整備課	

事業・取組	細事業	事業・取組の内容(概要)	実施エリア	R1年度の実施状況	R2年度の実施予定	R1事業費 (千円)	R2予算内示額 (千円)	課題・今後の見通し	今後のスケジュール(予定)					数値目標 (別途あれば)	局	課	備考
									H28	H29	H30	R1	R2				
下水道施 設の維持 管理	下水道事 業会計	・河川環境調査 浄化センターから放流され る処理水が、放流先河川 の自然環境へ与える影響 を把握するため、環境調査 (魚類調査)を実施。	木山川 (江津湖 地域の一 部)	環境局の事業に負担金を 支出	環境局の事業に負担金を 支出	1,610	2,000	浄化センター放流口におけ る魚類調査については、事 業の効率化を図るため、平 成29年度から環境局が実 施する「江津湖地域におけ る外来魚駆除及び魚類生 息状況調査」と一元化を行 う協定を結んだ。この協定 に基づき今後も事業費の 一部負担を継続する。	一元 化し継 続					無	上下水道 局	水再生課	
水質保全 対策事業	公共用水 域水質監 視経費	水質汚濁防止法に基づき、 公共用水域(河川・海域) の水質の汚濁の状況を調 査し、市域の公共用水域 の環境基準適合状況等を 把握する。	熊本市全 域	河川は27地点(環境基準 点8地点・補助点19地点)、 海域は4地点で水質(一部 底質)調査を実施。	河川は27地点(環境基準 点8地点・補助点19地点)、 海域は4地点で水質(一部 底質)調査を実施予定。	3,070	3,312	継続して調査を実施し、公 共用水域の水質の状況を 把握していく。	継続					無	環境局	水保全課	「守る」再 掲
水質保全 対策事業	地下水質 監視経費	水質汚濁防止法に基づき、 地下水の水質調査を実施 し、市域の地下水の水質 の状況を把握するととも に、地下水汚染地域の継 続的な監視を行う。	熊本市全 域	延べ410本の井戸で水質の 調査を実施。	延べ410本の井戸で水質の 調査を実施予定。	2,642	2,974	継続して調査を実施し、地 下水の水質の状況を把握 していく。	継続					硝酸性窒 素濃度 10mg/Lを 超過した 井戸の割 合5%以下 (R1)	環境局	水保全課	「守る」再 掲
水質保全 対策事業	化学物質 汚染調査 経費	ダイオキシン類対策特別措 置法に基づき、公共用水 域、地下水及び土壌中の ダイオキシン類の調査を実 施する。	熊本市全 域	ダイオキシン類は、河川12 地点、海域1地点、地下水2 地点、土壌2地点において 調査を実施。	ダイオキシン類は、河川12 地点、海域1地点、地下水2 地点、土壌2地点において 調査を実施予定。	1,434	1,484	継続して調査を実施し、ダ イオキシン類の状況を把握 していく。	継続					無	環境局	水保全課	「守る」再 掲
地下水量 保全対策 経費	地下水位 観測経 費	地下水保全のため地下水位 の状況を常に監視すると ともに、収集されたデータ は将来の地下水利用に関 する予測調査を行ううで 解析等に積極的に利用で きるものである。現在、市 内20地区に観測井戸を設 置し、オンラインによる監視 を行っており、これらの業 務を円滑的に行うための観 測機器の運転及び点検・ 補修に関わるもの。	熊本市全 域	観測業務及び保守点検業 務を委託し、年間を通し、 維持管理を行い、地下水位 の観測を行う。	観測業務を委託し、年間を 通し、維持管理を行い、地下 水位の観測を行う。	4,900	4,701	地下水位データをオンライン で常時監視し公表してい るが、システム機器導入か ら約15年経過しており、機 器類の老朽化が著しいた め、公表方法の見直しが必要。	継続					無	環境局	水保全課	「守る」再 掲
地下水量 保全対策 経費	地下水採 取量調 査経費	熊本県及び熊本市地下水 保全条例に基づく井戸の 届け出が約2,400本存在 し、郵送による調査を行っ ている。市内の地下水採取 に関する用途とその採取 量を全て把握することで地下 水量の監視を行うもの。	熊本市全 域	年度当初に報告書を発送 し、未提出者に対しては、 職員による電話及び訪問 にて報告書の提出を促し、 地下水採取量の把握に努 める。また、大規模採取者 や県条例の許可者に対し、 かん養計画書や節水計画 書等の提出をあわせて依頼 するもの。	年度当初に報告書を発送 し、未提出者に対しては、 職員による電話及び訪問 にて報告書の提出を促し、 地下水採取量の把握に努 める。また、大規模採取者 や県条例の許可者に対し、 かん養計画書や節水計画 書等の提出をあわせて依頼 するもの。	0	0	熊本地震の影響により予算 ・人員ともに減少し、事務 作業を直接職員が行うこ とになったが、報告書の回 収率が下がらないようにす ることが重要である。	継続					無	環境局	水保全課	「守る」再 掲

2) 効果的なモニタリング手法の検討と継続的な実施による情報の蓄積（指標となる生物種の設定など）

事業・取組	細事業	事業・取組の内容(概要)	実施エリア	R1年度の実施状況	R2年度の実施予定	R1事業費 (千円)	R2予算内示額 (千円)	課題・今後の見通し	今後のスケジュール(予定)					数値目標 (別途あれば)	局	課	備考
									H28	H29	H30	R1	R2				
自然環境 保全事業	生物多様 性保全推 進経費	本市の自然及び環境の変 化等を長期的に見ていくた め、指標種を設定し、その 効果的なモニタリング手法 等について検討するととも に、継続的なモニタリング の実施による情報蓄積の 仕組みを構築する。	熊本市全 域	3団体の協力をいただいて ホタル類、カヤネズミ、アカ ガエル、陸産貝類のモニタ リング結果をとりまとめ、把 握した。	3団体の協力をいただいて ホタル類、カヤネズミ、アカ ガエル、陸産貝類のモニタ リング結果をとりまとめ、把 握する。	0	0	収集した情報の蓄積や発信 の手法等の検討が必要。 。	検討	検討・ 試行		実施		無	環境局	環境共生 課	

3) 市民参加型の生物多様性のモニタリングの検討・実施

事業・取組	細事業	事業・取組の内容(概要)	実施エリア	R1年度の実施状況	R2年度の実施予定	R1事業費 (千円)	R2予算内示額 (千円)	課題・今後の見通し	今後のスケジュール(予定)					数値目標 (別途あれば)	局	課	備考
									H28	H29	H30	R1	R2				
自然環境 保全事業	生物多様 性保全推 進経費	市民や活動団体と連携・協 働し、自然環境のタイプを 代表する指標種について の継続的なモニタリングを 行う。	熊本市全 域	3団体の協力をいただいて ホタル類、カヤネズミ、アカ ガエル、陸産貝類のモニタ リング結果をとりまとめ、把 握した。 市民参加型として、セミの モニタリングを実施(R1.7.8 ～R1.9.13)。587件の調査 報告があった。	3団体の協力をいただいて ホタル類、カヤネズミ、アカ ガエル、陸産貝類のモニタ リング結果をとりまとめ、把 握する。 市民参加型として、セミの モニタリングを実施予定(7 月から9月頃)	668	698	次年度以降も市民参加型 として、セミのモニタリング を実施予定。より多くの市 民に参加をしてもらうた めの取組の検討が必要。	検討	検討・ 試行		実施		無	環境局	環境共生 課	

基本戦略2 学び、つながる 生物多様性の認識の向上、連携体制の構築

I 個別の事業ごとの実施状況

1. 生物多様性の認識の向上

1) 熊本市の特徴を踏まえた普及啓発ツール・学習プログラムの作成や、生物多様性に関するイベント・出前講座、自然体験ができる学習等の実施

(環境フェア、動植物園等を活用した普及啓発、出前講座や勉強会、公園における自然体験等)

									今後のスケジュール(予定)									
事業・取組	細事業	事業・取組の内容(概要)	実施エリア	R1年度の実施状況	R2年度の実施予定	R1事業費 (千円)	R2予算内示額 (千円)	課題・今後の見通し	H28	H29	H30	R1	R2	数値目標 (別途あれば)	局	課	備考	
自然環境 保全事業	生物多様 性保全推 進経費	環境フェアのブースやその他活用した普及啓発の実施、生物多様性に関する普及啓発ツールの作成	動植物園 ほか	・R1年5月11.12日に動植物園で生物多様性の日イベント「いきものフェアくまもと2019」を開催した(4課連携プロジェクト)。 ・2月に市立小学校4年生全員を対象に、生物多様性副読本「いきものさがし」を配布した。副読本を活用した出前講座を2校で予定していたが、新型コロナウイルス対策により中止した。 ・ニュースレター「生物多様性くまもとCだより」を発行した(1月)。 ・市ホームページ環境局サイトに、生物多様性に関する情報(イベント・環境教育・自然体験・活動団体紹介等)を随時掲載した。	・R2年5月9.10日に動植物園で生物多様性の日イベント「いきものフェアくまもと2020」を開催(4課連携プロジェクト)する。 ・市立小学校4年生全員を対象に、生物多様性副読本「いきものさがし」を配布し、副読本を活用した出前講座を要望に応じ開催する。 ・ニュースレター「生物多様性くまもとCだより」発行する。 ・市ホームページ環境局サイトに、生物多様性に関する情報(イベント・環境教育・自然体験・活動団体紹介等)を随時掲載する。	617	627	・生物多様性の日イベントは4課連携プロジェクトにおいて、今後も継続して実施する。その他様々な機会を活用して、普及啓発を行っていく。 ・副読本は、配布後の活用状況についても確認・評価を行い、より活用してもらう方法を模索する。中高生・大人向けのツールについても、今後検討する必要がある。 ・4課連携プロジェクト以外の部署(区役所等)との連携・各部署での取組に関する情報共有の推進が課題である。 ・今後も市ホームページ環境局サイトやSNS、市施設を活用した情報発信を行っていく。	継続 (一部検討)	→				無	環境局	環境共生課		
自然環境 保全事業	森林学習館管理経費	金峰山・森林学習館の運営、効果的な活用	北区貫町小萩	引き続き、指定管理により運営。利用者増加に努めるとともに、生物多様性の啓発に努める。 8月には、山の成り立ちや環境保全に関する事項の講座を実施した。	引き続き、指定管理により運営。 随時、展示館に生物多様性に関するチラシ、書籍を設置し啓発に努めるとともに、自然散策会や豊かな地下水を育む森づくりの学習会等を実施予定。	3,967	4,099	R2～4年度の3年間で指定管理により運営。 今後も利用者増加に努めるとともに、生物多様性の啓発に努める。	継続	→				無	環境局	環境共生課		
1人1緑化事業	全国都市緑化フェア準備経費	緑の検定テキストブック作成及び緑の検定の実施	熊本市全域	緑の検定テキストブック作成及び第1回 緑の検定の実施	緑の検定テキストブックの微修正及び第2回 緑の検定の実施	4,300	3,787	受験者確保のため、広報手段の検討が必要。				テキスト作成 + 第1回検定の実施	テキスト微修正 + 第2回検定の実施	無	環境局	環境共生課		
環境啓発事業	わくわく江津湖フェスタ環境フェア開催経費	・環境フェア開催 毎年5月に環境フェアを実施し、生態系を含めた環境全般についての啓発事業を行っている。	動植物園	未実施 予定無	予定無	0	0	環境フェアについては、一定期間の休止としたが、他のイベント等を活用するなどPRIについては継続して実施していく。 今後イベントを再開する際には、これまで培った手法や経験を活かすほか、他都市の環境イベントを調査するなど、最小の経費で最大の効果を上げることができるよう検討を行う。	休止	休止	休止	休止	休止	無	環境局	環境政策課		
環境啓発事業	市民啓発経費	科学的な体験学習や自然観察会を開催するとともに、出前講座への講師の派遣等、教育現場や地域活動における環境学習を積極的に支援する。	江津湖金峰山 その他河川・湧水地等	●親子環境探検隊参加者合計152名 第1回:9月江津湖水生生物ウォッチング参加者32名 第2回:10月金峰山で秋の野鳥観察参加者19名 第3回:11月晩秋の金峰山里山散策参加者40名 第4回:1月冬の上江津湖野鳥観察参加者61名 ●出前講座(水生生物観察会)7件212名(いきものフェア含む)	●親子環境探検隊は効率化事業の対象のため廃止。今後は、自然豊かな江津湖や金峰山、立田山をフィールドとした自然観察会を実施して、生物多様性をより多くの市民に啓発できなにか検討し、実施する予定。 ●出前講座の水生生物観察会は継続実施。	710	827	事業効率化により、親子環境探検隊は廃止になるが、生物多様性戦略計画の行動計画に位置付けられているセンターの役割として、令和元年度並みに実施するには、講座の見直しと工夫が重要だと考えている。	事業は継続するが、一部中止	継続	継続	→		各回定員30名程度	環境局	環境総合センター		
環境啓発事業	市民啓発経費	科学的な体験学習や自然観察会を開催するとともに、出前講座への講師の派遣等、教育現場や地域活動における環境学習を積極的に支援する。	環境総合センター敷地内	●カブトムシ・クワガタムシ飼育講座を7月に実施。参加者242名。 ●夏休み環境科学教室(2週間実施)「ミジンコの不思議」をテーマに植物連鎖について学習 火曜日の午前・午後の計4回実施し、参加者48名	継続実施予定。			参加希望者が多い人気の講座であり、種の保全や外来種について学ぶ貴重な機会なので、さらに充実させ継続実施して行きたい。	検討	検討	継続	→		参加総数300名	環境局	環境総合センター		
水産業地域交流促進事業	市民と水産業の交流促進事業	小学生を主な対象とした干潟体験や出前講座を実施することで、市民と漁業者との交流促進や水域環境の保全への意識啓発を図る。	有明海(小島地区)・市内小学校	R1.8.29砂取小学校の生徒(75名)、教職員(3名)の計78名を対象とした干潟体験を実施。 R2.2.4ノリ養殖漁業に関する出前事業を同校生徒(74名)、教職員(3名)を対象に実施。	ノリを使用した簡単クッキング実習を加え、リニューアルしたノリ出前講座を実施予定。 対象:小学校高学年 人数:40～60名程度	192	92	干潟体験については、平成30年度より西区役所主催による同様事業が展開されていることから、当センター事業は廃止予定。	継続	→				一部廃止	無	農水局	水産振興センター	
観光イベント・観光資源掘り起こし事業	にぎわいづくり推進経費	わくわく江津湖フェスタ開催にかかる民間団体等への各種支援。	江津湖周辺					事業は、H28年度で終了	中止	終了	—	—	—	無	経済観光局	イベント推進課		
動植物園管理運営事業	都市緑化植物園管理経費	・肥後六花の栽培・展示 樹木見本園に、肥後椿、肥後山茶花、肥後芍薬、肥後花菖蒲を植栽。肥後朝顔については保存会の協力を得て展示会を実施。	動植物園植物ゾーン	樹木見本園において、肥後椿、肥後山茶花、肥後芍薬、肥後花菖蒲を栽培及び展示。肥後朝顔展示会は9月6～8日に実施。	樹木見本園において、肥後椿、肥後山茶花、肥後芍薬、肥後花菖蒲を栽培及び展示。肥後朝顔展示会は9月4～6日に実施予定。	0	0	今後も樹木見本園において、肥後椿、肥後山茶花、肥後芍薬、肥後花菖蒲を栽培及び展示。肥後朝顔、肥後菊の栽培、展示を検討。	一部休止	継続	→				無	経済観光局	動植物園	
魅力ある動植物園づくり事業	都市緑化植物園管理経費	・親子自然観察会「江津湖の生き物ウォッチング」 貴重な江津湖の動植物を観察し、「自然のすばらしさ」を親子で体感するもの。	動植物園植物ゾーン、江津湖周辺	夏場の猛暑や天候の急変等を考慮し、実施時期を7月から10月へ変更。	10月実施予定。	30	30	観察会ルートを含め、内容の変更を検討。	休止	→	再開	→		無	経済観光局	動植物園		

動植物園 管理運営 事業	都市緑化 植物園管 理経費	・植物観察会「春の七草を 知ろう」 園内や江津湖に自生する 「春の七草」を現地で観察 し、七草の種類、風習など を学び、自然環境に関心を もつ心を養うための観察 会。	動植物園 植物ゾー ン	1月5日実施。	1月3日実施予定。	0	0	今後も継続予定	休止	再開					無	経済観光 局	動植物園	
動植物園 管理運営 事業	動植物園 一般管理 経費	・野鳥の観察会 日本野鳥の会の講師と一 緒に、多くの渡り鳥が飛来 してくる豊かな自然に恵ま れた江津湖と動植物園内 の野鳥を観察。	動植物園 動物ゾー ン	1月27日に実施	1～2月に実施予定	0	0	今後も継続予定	休止	再開					無	経済観光 局	動植物園	
魅力ある 動植物園 づくり事 業	集客対策 経費	・ホテルの観察会 5月中旬に園内の日本庭 園で、市民を対象としたホ タル観察会を実施。	動植物園 日本庭園	5月17・18日に園内の日本 庭園でホタル観察会を実 施。	実施予定	0	0	今後も継続予定	休止	➡	再開				無	経済観光 局	動植物園	
動植物園 管理運営 事業	動植物園 一般管理 経費	・肥後五鶏の飼育・展示・ 講習会 肥後ちやぼ保存会の協力 を得て、熊本の地鶏「肥後 五鶏」を飼育、展示。伝統 文化についての啓発を図 るため、年1回講習会「肥 後五鶏を知ろう」を開催し、 特徴等について解説。	動植物園 動物ゾー ン	3月に実施予定→新型コロナ ウイルス感染症の影響 により中止	2～3月に実施予定	20	20	今後も継続予定	休止	再開					無	経済観光 局	動植物園	

									今後のスケジュール(予定)								
事業・取組	細事業	事業・取組の内容(概要)	実施エリア	R1年度の実施状況	R2年度の実施予定	R1事業費 (千円)	R2予算内示額 (千円)	課題・今後の見通し	H28	H29	H30	R1	R2	数値目標 (別途あれば)	局	課	備考
動物の生態環境や生態についての、“教育・環境教育”		・動物ガイド 各展示動物の生態や、人間との関わりについて飼育員が分かりやすく解説	動植物園 動物ゾーン	土日祝だけでなく平日も実施。	土日祝だけでなく平日も実施予定。	0	0	今後も継続予定	休止	➡	再開	➡		無	経済観光局	動植物園	
動物の生態環境や生態についての、“教育・環境教育”		動物舎への植栽など、生息地環境にできるだけ近づけることを目的とした参加型イベントによる環境教育	動植物園 動物ゾーン	3月14日「チンパンジーの喜ぶ顔が見てみたい」実施予定→新型コロナウイルス感染症の影響により中止	実施予定	0	0	今後も継続予定	休止	➡	再開	➡		無	経済観光局	動植物園	
動物の生態環境や生態についての、“教育・環境教育”		傷病鳥獣など、野生復帰できない動物を用いた環境教育	動植物園 動物ゾーン	熊本県鳥獣保護センターより譲り受けたホンドタヌキのガイドを実施。	実施予定	0	0	今後も継続予定	休止	➡	再開	➡		無	経済観光局	動植物園	
動物の生態環境や生態についての、“教育・環境教育”		ニホンザルエリアにおける田植え、稲刈りなどの参加型イベントによる環境教育	動植物園 動物ゾーン	6月29日 田植え実施。 10月27日 稲刈り実施。	実施予定	0	0	今後も継続予定	休止	➡	再開	➡		無	経済観光局	動植物園	
生息環境を再現した展示		・動植物園再編成整備事業 リニューアルされたニホンザルエリアにおける展示コンセプト“人と動物の共生”として、球磨郡相良村の生息環境を再現した施設を建設。	動植物園 動物ゾーン	-	-	0	0	終了	終了	-	-	-	-	無	経済観光局	動植物園	
「生態系のしくみ」というタイトルでの多様性に関する講話(一般向け)		身近な自然環境に見られる多様性と外来種問題について話す。講話と観察会を組み合わせで行うこともある。	主に熊本市内	実施なし	依頼があれば実施する	0	0	依頼を受けて対応する。	継続	➡			➡	無	教育委員会	熊本博物館	
生物多様性に関連した勉強会等の講師		メインテーマは依頼者が設定するが、必ず生物多様性に主眼を置いて話を進める。	主に熊本市内	実施なし	依頼があれば実施する	0	0	依頼を受けて対応する。	継続	➡			➡	無	教育委員会	熊本博物館	
自然観察会		身近な自然の観察を通して多様性について考える	主に熊本市内	計6回実施	博物館主催での実施は年5回程度を予定。 そのほか、外部から依頼された場合に講師として携わる。	0	0	外部からの依頼により講師として携わるもののほか、博物館主催の観察会も年数回程度実施していく予定。	継続	➡			➡	無	教育委員会	熊本博物館	
生物多様性に関連した展示解説		ミュージアムトーク 展示の紹介・解説を通して生物多様性についての話題を提供する。	博物館展示室	12回実施	毎月1～2回程度開催予定	0	0	継続的に実施予定					➡		教育委員会	熊本博物館	
動物学講座		動物としてのヒトが、自然といかに関わっていくべきか常に考えながら学ぶ。	主に熊本市内	7回実施 ※12回予定のうち荒天により3回中止、コロナウイルス対策により2回中止	5月より隔月で6回実施	0	0	毎年実施の予定。	休止	➡		再開	➡	無	教育委員会	熊本博物館	
植物学講座		身近な植物に関する話題や情報を提供し、理解や知識を深める。	博物館および野外(熊本市内)	8回実施	4月より隔月で6回実施	0	0	毎年実施の予定。	休止	➡		再開	➡	無	教育委員会	熊本博物館	
		・干潟フェスタ 干潟に棲む生物の観察やパネル展示、クイズラリーなどを通じて有明海の環境や干潟を知ってもらう。	熊本港周辺干潟	-	-	0	0	事務局から、金銭面や人員不足等の課題により廃止予定と聞いている。	未実施	廃止予定	廃止予定	-	-	無	都市建設局	交通政策課	

2) ウェブサイトやSNS、市政だより等を活用した熊本市の生物多様性に関する情報の積極的な発信

事業・取組	細事業	事業・取組の内容(概要)	実施エリア	R1年度の実施状況	R2年度の実施予定	R1事業費 (千円)	R2予算内示額 (千円)	課題・今後の見通し	今後のスケジュール(予定)					数値目標 (別途あれば)	局	課	備考
									H28	H29	H30	R1	R2				
自然環境保全事業	生物多様性保全推進経費	生物多様性に関するウェブページの整備等普及啓発の実施	熊本市全域	・市ホームページ環境局サイトや動植物園の生物多様性情報コーナーを活用し、積極的に情報を発信した。	・市ホームページ環境局サイトや動植物園の生物多様性情報コーナーを活用し、積極的に情報を発信する。	0	0	今後も市ホームページ環境局サイトやSNS、市施設を活用した情報発信を行っていく。	継続					無	環境局	環境共生課	
自然環境保全事業	生物多様性保全推進経費	環境共生課:情報の収集・発信の核となる体制の構築等(庁内への定期的な関連調査の照会とデータ提供依頼、データベースの整理) 博物館:生物等に関わる専門的調査や助言及び関連論文等の収集 環境総合センター:地域の生物多様性や環境問題についての体験学習による情報発信等 動植物園:生物の展示や解説、また絶滅危惧種の域外保全の取組等を通して、熊本の生物多様性に関する普及啓発・情報発信等。	熊本市全域	・庁内の関係各課に対して、関連事業の進捗状況調査を実施した。 ・熊本博物館、環境総合センター、動植物園の4課で集まり、生物多様性の推進に向けた協議の場(4課連携プロジェクト)での協議を継続し、生物多様性に関する知識や環境教育の手法に関するスキル向上を目的とした担当者研修を実施した。 ・熊本の自然環境や市民活動に関する情報発信の拠点として、多くの人が訪れる熊本市動植物園(動物資料館)に、生物多様性情報コーナーを設置(常設)。	・庁内の関係各課に対して、関連事業の進捗状況調査を実施予定。 ・熊本博物館、環境総合センター、動植物園の4課で集まり、生物多様性の推進に向けた協議の場(4課連携プロジェクト)での協議を継続し、生物多様性に関する知識や環境教育の手法に関するスキル向上を目的とした担当者研修を実施予定。 ・熊本の自然環境や市民活動に関する情報発信の拠点として、多くの人が訪れる熊本市動植物園(動物資料館)に、生物多様性情報コーナーを設置(常設)。			・4課連携プロジェクトでは生物多様性の日に向けたイベントの協議が中心となっていたため、今後、リニューアルをした熊本博物館や動植物園マスタープランの策定等を踏まえ、情報の蓄積・収集・発信の手法等を含めた体制の検討が必要。 ・4課連携プロジェクト以外の部署(区役所等)との連携・各部署での取組に関する情報共有の推進が課題。 ・今後、生物多様性情報コーナーの中身を充実させていく。	継続					無	環境局 経済観光局 教育委員会	環境共生課 環境総合センター 動植物園 熊本博物館	「学び、つながる」再掲
			江津湖一帯 金峰山系	江津湖に生息する生物のモニタリングと情報収集を実施する。 5月から12月の間、金峰山某所で自動撮影装置による哺乳類モニタリングを実施した。	江津湖に生息する生物のモニタリングと情報収集を実施する。 5月から11月の間、金峰山某所で自動撮影装置による哺乳類モニタリングを実施する。			江津湖に関しては、環境共生課と協働して実施する魚類調査に加え、他の生物の調査や情報収集は随時実施していく。 金峰山に関しては、これまでどおり主に自動撮影装置を用いて実施する。	継続					無	教育委員会	熊本博物館	「学び、つながる」再掲
動物資料館事業		・動物資料館事業 江津湖における魚類の生息状況展示及び江津湖環境に関する情報発信、江津湖に棲む外来生物の影響等の情報発信・啓発	動植物園 動物資料館	資料館水槽で江津湖に生息する魚類を展示し、江津湖環境に関する情報発信を継続して実施	資料館水槽で江津湖に生息する魚類を展示し、江津湖環境に関する情報発信を継続して実施予定	0	0	H29年度から再開	休止	再開				無	経済観光局	動植物園	

2. 教育の推進・人材の育成

1) 市役所における生物多様性の浸透の推進

事業・取組	細事業	事業・取組の内容(概要)	実施エリア	R1年度の実施状況	R2年度の実施予定	R1事業費 (千円)	R2予算内示額 (千円)	課題・今後の見通し	今後のスケジュール(予定)					数値目標 (別途あれば)	局	課	備考
									H28	H29	H30	R1	R2				
自然環境保全事業	生物多様性保全推進経費	熊本市生物多様性庁内推進会議等を中心にした計画の進捗の把握・見直しの他庁内連携の推進	熊本市	・R1年度第1回熊本市生物多様性庁内推進会議を7/9に開催した。 ・生物多様性に係る関連事業の実施状況等調査を関係各課に照会した(第1回6～7月、第2回2～3月)。	・R1年度第1回熊本市生物多様性庁内推進会議を開催する。 ・生物多様性に係る関連事業の実施状況等調査を関係各課に年2回照会予定。	0	0	継続的に熊本市生物多様性庁内推進会議を開催するとともに、庁内への生物多様性の重要性をさらに浸透させる取組が必要となる。	継続					無	環境局	環境共生課	
街なかの緑創出事業	緑化推進経費	緑化行政に携わる職員を対象に、公共樹木管理について技術講習会を開催し、職員の知識と技術の向上及び本市の緑化の推進を図る。	熊本市	下半期に講習会(緑化技術講習会)を開催予定 代替として、区ごとに年2回花の育て方講習会を開催。	年に1度講習会(緑化技術講習会)を開催予定。	420	30	・緑化技術講習会については、例年、樹木の維持管理等における課題をテーマに開催していたが、今年度は外来生物もテーマに入れて実施した。対象者のニーズに加え、主催者側が伝えるべき内容についても引き続き検討する。	継続					無	環境局	環境共生課	

2) 学校における生物多様性に関する教育の推進

(理科や総合的な学習の時間等の生物多様性分野に関する学習の充実、学校や教員が利用できる生物多様性に関する学習の支援ツールの作成、動植物園での教員に対する生物多様性に関する研修の実施等)

事業・取組	細事業	事業・取組の内容(概要)	実施エリア	R1年度の実施状況	R2年度の実施予定	R1事業費 (千円)	R2予算内示額 (千円)	課題・今後の見通し	今後のスケジュール(予定)					数値目標 (別途あれば)	局	課	備考
									H28	H29	H30	R1	R2				
環境教育担当者会		各小中学校の環境教育担当者向けに、環境教育実践事例の講話や本市環境局各課からイベントや学習教材等を紹介し、学校における環境教育の一層の充実を図る。	熊本市立の各小中学校	全熊本市立小中学校(134校)の環境教育担当者が参加し、①環境教育についての指導課からの指導・連絡、②本市環境局関係各課及び上下水道局経営企画課からの連絡、③環境教育に関する取組発表を行った。	令和2年度より廃止する。	0	0	①指導課からの指導・連絡については、文書にて周知する。 ②環境局各課からの取組紹介の方法については、関係課で相談しながら進める。教科等(社会・理科・総合)の研修会の折に、取組紹介する機会を検討する。	継続				廃止	無	教育委員会	指導課	

2) 地域住民等様々な主体との連携・協働による生物多様性の保全と活用の取組の推進(放置竹林対策、外来種侵入警戒モニタリング等)

									今後のスケジュール(予定)								
事業・取組	細事業	事業・取組の内容(概要)	実施エリア	R1年度の実施状況	R2年度の実施予定	R1事業費 (千円)	R2予算内示額 (千円)	課題・今後の見通し	H28	H29	H30	R1	R2	数値目標 (別途あれば)	局	課	備考
自然環境 保全事業	自然環境 保全経費	地域住民や、被害の出やすい農業者、専門家のネットワーク等を活用するとともに、庁内連携等を強めることによる、アライグマ等の侵入警戒の早期発見体制の検討・構築	熊本市全域	・アライグマについての市民からの相談や情報提供については、必要に応じ、鳥獣対策室と連携した対応を行った。 ・熊本市及び近隣市町の行政職員や捕獲従事者(猟友会等)を対象としたアライグマ防除講習会を2回開催した。 ・周辺地域(玉東町・玉名市、宇土市・宇城市)と連携し、調査状況や捕獲状況等の情報を共有した。	・引き続き、庁内関係部署や周辺自治体との連携した対策・情報共有を行う。アライグマの生息の可能性がある地域に対しては、自治会や関係団体を通じた情報提供依頼を行う。 ・アライグマについての市民からの相談や情報提供については、必要に応じ、関係部署と連携した対応を行う。	0	0	・野外で活動・調査を実施している団体や研究者、学校(生物部等)、猟友会等といった主体との連携した取組や早期発見体制の構築についても検討が必要である。 ・県内(特に県北地域)におけるアライグマの生息確認例が増加傾向にあり、侵入圧が今後さらに高まると想定されるため、近隣自治体との連携をより進める必要がある。	検討	講習会実施・監視体制構築	実施	➡		無	環境局	環境共生課ほか	

									今後のスケジュール(予定)						数値目標 (別途あれば)	局	課	備考
事業・取組	細事業	事業・取組の内容(概要)	実施エリア	R1年度の実施状況	R2年度の実施予定	R1事業費 (千円)	R2予算内示額 (千円)	課題・今後の見通し	H28	H29	H30	R1	R2					
自然環境 保全事業	自然環境 保全経費	・放置竹林整備モデル事業 里地・里山で長年人の手入れがなされず放置されている竹林の整備を行う団体へ助成し、モデル事業を抽出する。放置竹林モデル事業の実施と成果を踏まえた管理手法・体制の検討を実施予定。	西区池田2丁目外5箇所	森林・山村多面的機能発揮対策事業を活用して、放置竹林対策を実施する市内13団体に対して、助成を行う予定。同事業の取組団体を主体とした連絡会議を設置し、対策の継続・区域拡大を図る。	森林・山村多面的機能発揮対策事業を活用して、放置竹林対策を実施する市内12団体に対して、助成を行う予定。市民協働による放置竹林対策の推進に向けたモデル事業(竹処理関連機器のレンタル等を含む)を実施予定。	1,586 (2月補正で増額予定)	8,448	森林・山村多面的機能発揮対策事業を活用して、放置竹林対策の効果的な整備の事例収集を行う。	実施6団体 事例の紹介	実施3団体	事業の検証・検討	放置竹林対策連絡会議設置	拡大推進	無	農水局 (R1年度事業移管)	農業政策課(森づくり推進室)	「守る」再掲	
自然環境 保全事業	保存樹木等保全経費	・健軍タブノキの保全 地元住民と連携し、地元の象徴的なタブノキを保全している	東区健軍3丁目	跡地の利用について検討していく。 跡地の利用について、庁内外で検討を進めた。また跡地の除草や、雑草繁茂の予防のため防草シートを張った。	跡地の利用について、さらに検討を進める。	101	0	今後は、跡地の利用について検討していく。	継続	倒木・撤去	木材・跡地の利用の検討			無	環境局	環境共生課	「守る」再掲	
広域連携 協働事業	広域水保全対策運営経費	熊本地域が一体となって地下水保全対策を推進するため、熊本県、熊本地域11市町村、くまもと地下水財団、事業者、住民と協働し広域的な取組を展開。	熊本地域11市町村	くまもと地下水財団「第1次中長期基本計画」に基づき、公益目的4事業を推進する。 ・地下水環境調査研究事業 ・地下水質保全対策事業 ・地下水涵養推進事業 ・地下水採取・使用適正化推進事業	くまもと地下水財団「第1次中長期基本計画」に基づき、公益目的4事業を推進する。 ・地下水環境調査研究事業 ・地下水質保全対策事業 ・地下水涵養推進事業 ・地下水採取・使用適正化推進事業	7,255	7,125	熊本県、熊本地域11市町村、くまもと地下水財団が更なる連携を図り、恵まれた水資源を後世に守り伝える。	継続					無	環境局	水保全課	「守る」再掲	
広域連携 協働事業	白川中流域かん養推進経費	本市にとって重要な地下水かん養域である白川中流域において、次世代を担う子供たちが、田植えや稲刈り等の農業体験を通じて、農業がもたらす地下水への効果を学習し、併せて、流域の交流を進めることにより、将来へと続く相互理解を深めるもの。	白川中流域(大津町、菊陽町)	白川中流域水土里ネット協議会を中心として、熊本市内の小学5年生と保護者、菊陽町及び大津町の小学生に参加を呼びかけてもらい、農業体験を7月に実施。	白川中流域水土里ネット協議会を中心として、熊本市内の小学5年生と保護者、菊陽町及び大津町の小学生に参加を呼びかけてもらい、農業体験実施予定。	180	300	本市にとって重要な地下水かん養域である白川中流域において、次世代を担う子供たちに田植えや稲刈り等の農業体験を通じて、農業がもたらす地下水への効果を学習し、併せて、流域の交流を進めることにより、将来へと続く相互理解を深めるため、当該活動を継続して実施していくことが必要である。	休止	再開(不参加)	参加(台風のため中止)			無	環境局	水保全課	「守る」再掲	
広域連携 協働事業	水源の森づくりボランティア活動経費	熊本地域の地下水の現状について認識を深めるとともに、森林作業(植付・下刈・間伐・枝打等)や上流域でのふれあい活動(林産品等の加工等)を通じて、山林を保全するために必要とされる知識・技術の習得を通じ、ボランティアの育成を図るもの。	大津町、西原村、南阿蘇村	熊本地震の復興を優先させるため、平成31年度も活動を休止するもの。	年2回を目標に、熊本地域の地下水の現状について認識を深めるとともに、森林作業(植付・下刈・間伐・枝打等)や上流域でのふれあい活動(林産品等の加工等)等を実施予定。	0	441	熊本地震からの復旧・復興を優先させることから、当該事業を一時休止していたが、活動場所である森林の状況や、活動内容を再検討し、令和2年度から事業を再開する。	休止				再開	無	環境局	水保全課	「守る」再掲	
人と動物との共生 推進事業	野生鳥獣対策事業	被害地域が主体となった被害未然防止対策の推進 鳥獣の捕獲による個体数管理の推進	熊本市全域	鳥獣被害対策については、今後も地域の農区や自治会、住民を対象とした勉強会等を開催し、鳥獣に対する知識を深めることで、集落や住宅地に鳥獣が出ない環境を構築し、地域ぐるみの対策に取り組む。加えて、駆除隊と連携・協力し、鳥獣の捕獲による個体数管理に取り組んだ。	鳥獣被害対策については、今後も地域の農区や自治会、住民を対象とした勉強会等を開催し、鳥獣に対する知識を深めることで、集落や住宅地に鳥獣が出ない環境を構築し、地域ぐるみの対策に取り組む。加えて、駆除隊と連携・協力し、鳥獣の捕獲による個体数管理に取り組む。	9310 【再掲】	9310 【再掲】	住宅地、通学路等におけるイノシシやシカ等の野生動物の出没件数が増加していることから、今後も引き続き、被害未然防止対策の普及・啓発に努めるとともに、捕獲による個体数管理に取り組む。	継続	➡	鳥獣対策室に移管	継続	➡	無	農水局	農業支援課鳥獣対策室		
公園維持 管理事業	公園維持管理経費	本市の緑の骨格として貴重な緑である託麻三山のうち、神園山小山山緑地について、良好な環境を保全するとともに、地域コミュニティの構築及び住民の地域に対する愛着を深めることを目的として、委託契約及びボランティア協定を締結し「市民協働による里山づくり」を進めている。	神園山小山山緑地	地域住民への委託契約による下草刈及びボランティア協定による苗木の植え付け、公園の利用促進に関する活動、清掃等を実施。市では竹伐採等を実施。	地域住民への委託契約による下草刈及びボランティア協定による苗木の植え付け、公園の利用促進に関する活動、清掃等を実施。市では竹伐採等を実施予定。	857	900	神園山小山山緑地は、NP〇等の団体も活動しており、各団体の調整を図りながら良好な環境を保全していく必要がある。今後も多様な団体と協働しながら、事業を継続していく。	継続					無	都市建設局	東部土木センター河川公園整備課	「守る」再掲	
公園維持 管理事業	公園維持管理経費	本市の緑の骨格として貴重な緑である託麻三山のうち、戸島山緑地について、良好な環境を保全するとともに、地域コミュニティの構築及び住民の地域に対する愛着を深めることを目的として、委託契約及びボランティア協定を締結し「市民協働による里山づくり」を進めている。	戸島山緑地	地域住民への委託契約による除草及びボランティア協定による竹伐採、清掃、緑地利用促進に関する活動を実施。	地域住民への委託契約による除草及びボランティア協定による竹伐採、清掃、緑地利用促進に関する活動を実施予定。	578	796	今後も多様な団体と協働しながら、事業を継続していく。	実施【新規】	継続				無	都市建設局	東部土木センター河川公園整備課	「守る」再掲	

安定した農業生産・集出荷の推進及び鳥獣による市民への直接の被害防止	農作物鳥獣被害対策事業、鳥獣被害対策事業（生活被害対策）	農作物被害や生活被害を及ぼすイノシシをはじめとした鳥獣類の駆除のほか、県や他市町村、環境局と連携しクリハリスやアライグマなどの外来生物の侵入を監視。特に、アライグマの生息が確認されている地区においては、農業者や関係機関の普及員、営農指導員、駆除隊と連携し、目撃情報や疑わしき被害などの情報収集に努め、監視体制の構築を図る。	熊本市全域	アライグマについては、環境局が取組む生息状況調査を注視するとともに、農業者、農業団体、駆除隊などに対して、特徴・見分け方等を周知し、発見時の情報提供を呼びかける。また、目撃情報や疑わしき被害が寄せられた場合は、環境局と連携し、現地確認・調査等を実施する。 鳥獣被害対策については、今後も地域の農区や自治会、住民を対象とした勉強会等を開催し、鳥獣に対する知識を深めることで、集落や住宅地に鳥獣が出没しない環境を構築し、地域ぐるみの対策に取り組む。加えて、駆除隊と連携・協力し、鳥獣の捕獲による個体数管理に取り組む。	アライグマについては、環境局が取組む生息状況調査を注視するとともに、農業者、農業団体、駆除隊などに対して、特徴・見分け方等を周知し、発見時の情報提供を呼びかける。また、目撃情報や疑わしき被害が寄せられた場合は、環境局と連携し、現地確認・調査等を実施する。 鳥獣被害対策については、今後も地域の農区や自治会、住民を対象とした勉強会等を開催し、鳥獣に対する知識を深めることで、集落や住宅地に鳥獣が出没しない環境を構築し、地域ぐるみの対策に取り組む。加えて、駆除隊と連携・協力し、鳥獣の捕獲による個体数管理に取り組む。			今後も引き続き、アライグマの目撃情報や生息痕跡等の収集に努め、関係部局との情報共有を図り、被害防止対策を進める。 住宅地、通学路等におけるイノシシやシカ等の野生動物の出没件数が増加していることから、今後も引き続き関係機関と連携し被害未然防止対策の普及・啓発に努めるとともに、捕獲による個体数管理に取り組む。	継続						無	農水局	農業支援課鳥獣対策室	「知る」再掲
-----------------------------------	------------------------------	---	-------	---	---	--	--	--	----	--	--	--	--	--	---	-----	------------	--------

基本戦略3 守る 生物の生息・生育地の保全

- I 個別の事業ごとの実施状況
1. 絶滅危惧種の保全
1) 市内に生息・生育する絶滅危惧種の保全の方向性の検討

事業・取組	細事業	事業・取組の内容(概要)	実施エリア	R1年度の実施状況	R2年度の実施予定	R1事業費 (千円)	R2予算内示額 (千円)	課題・今後の見通し	今後のスケジュール(予定)					数値目標 (別途あれば)	局	課	備考
									H28	H29	H30	R1	R2				
※検討中		市民参加型モニタリング、県や地元の有識者等との情報共有のネットワーク構築による情報収集を踏まえた保全方策の検討	熊本市全域	情報の収集を継続するとともに、開示制限、情報の活用方法等を検討する。	情報の収集を継続するとともに、開示制限、情報の活用方法等を検討する。	0	0	取組は必要だが、優先順位を付け進めていく。	—	検討	→			無	環境局	環境共生課	

2) 関係機関と連携した保全対策の実施

事業・取組	細事業	事業・取組の内容(概要)	実施エリア	R1年度の実施状況	R2年度の実施予定	R1事業費 (千円)	R2予算内示額 (千円)	課題・今後の見通し	今後のスケジュール(予定)					数値目標 (別途あれば)	局	課	備考
									H28	H29	H30	R1	R2				
自然環境保全事業	立田山管理経費	立田山憩の森の維持管理における県との連携によるトダスゲ等の保全など	立田山憩の森(トダスゲ湿地など)	・トダスゲ、アカササゲ等の生育が見られる箇所の下草刈については、通常の作業と時期をずらし、種が落ちた後に行うよう保全策を実施した。 H30年度に策定した立田山憩の森整備計画に基づき整備を行い、適正な維持管理を行う。	・トダスゲ、アカササゲ等の生育が見られる箇所の下草刈については、通常の作業と時期をずらし、種が落ちた後に行うよう保全策を実施予定。 H30年度に策定した立田山憩の森整備計画に基づき整備を行い、適正な維持管理を行う。	33,600	67,519	適宜、専門家にも協力していただき、巡回とともに保全策を実施していく。	継続	→				無	環境局	環境共生課	
		公園・河川・森林等の管理における保全への配慮	水前寺江津湖公園	指定管理者による希少種に配慮した草刈等の実施や希少種の保全活動を実施	指定管理者による希少種に配慮した草刈等の実施や希少種の保全活動を実施予定	0	0	職員及び指定管理者における希少種保護に関する知識の習得、活動内容・情報の共有化。	継続	→				無	都市建設局	東部土木センター 河川公園整備課	
		公園・河川・森林等の管理における保全への配慮	東部土木センター管内 西部土木センター 河川公園整備課	公園内樹木の害虫駆除について、極力農薬を使用しない駆除方法(捕殺・剪定)を選択。	公園内樹木の害虫駆除について、極力農薬を使用しない駆除方法(捕殺・剪定)を選択予定。	0	0	今後も極力農薬を使用しない害虫駆除を実施していく。	継続	→				無	都市建設局 その他	東部土木センター 河川公園整備課 西部土木センター 河川公園整備課	

3) 動植物園における絶滅危惧種の域外保全の実施

事業・取組	細事業	事業・取組の内容(概要)	実施エリア	R1年度の実施状況	R2年度の実施予定	R1事業費 (千円)	R2予算内示額 (千円)	課題・今後の見通し	今後のスケジュール(予定)					数値目標 (別途あれば)	局	課	備考
									H28	H29	H30	R1	R2				
動植物園管理運営事業	都市緑化植物園管理経費	・スイゼンジノリの保存・栽培 江津湖に自生していたスイゼンジノリの保存・復活を目指した栽培試験を実施している。	動植物園植物ゾーン	動植物園植物ゾーン日本庭園にて栽培試験を実施	動植物園植物ゾーン日本庭園にて栽培試験を実施	0	0	継続して栽培試験を実施予定	継続	→				無	経済観光局	動植物園	
動植物園管理運営事業	動植物園一般管理経費	・江津湖希少動物の養殖・展示 タナゴ等の江津湖希少動物を動物資料館の水槽で養殖、展示。	動植物園動物資料館	資料館水槽で飼育・繁殖継続	資料館水槽で飼育・繁殖継続	707 園全体の 原材料費	714 園全体の 原材料費	継続して飼育・繁殖・展示を実施予定	継続	→				無	経済観光局	動植物園	
動植物園管理運営事業	動植物園一般管理経費	・保護野生鳥獣の養生飼育・展示 県自然保護課と連携して、ケガなどで保護された野生鳥獣(タカ等)を預かり養生を図るもの。	動植物園動物ゾーン	必要に応じて実施	必要に応じて実施	1,737 園全体の 医薬材料費	1,737 園全体の 医薬材料費	鳥インフルエンザ防疫を考慮すると、今後積極的受入が難しくなるケースが考えられる	実施なし	→				無	経済観光局	動植物園	
絶滅の恐れのある希少動物の保護・繁殖等の“種の保存”		絶滅危惧ⅠA類に分類されているニッポンバラタナゴ、セボシタビラ、絶滅危惧Ⅱ類に分類されているヤマトシマドジョウ、メダカの保護・繁殖	動植物園動物資料館	資料館水槽で飼育・繁殖継続	資料館水槽で飼育・繁殖継続	707 園全体の 原材料費	714 園全体の 原材料費	継続して飼育・繁殖・展示を実施予定 課題として以前から飼育している江津湖由来とされるニッポンバラタナゴの遺伝子解析が行われていない	継続	→				無	経済観光局	動植物園	
絶滅の恐れのある希少動物の保護・繁殖等の“種の保存”		熊本県レッドデータブックで絶滅危惧Ⅱ類に分類されているヒラモの保護・養殖	動植物園植物ゾーン	動植物園植物ゾーン日本庭園にて保護・養殖を実施	動植物園植物ゾーン日本庭園にて保護・養殖を実施	0	0	継続して栽培を実施予定	継続	→				無	経済観光局	動植物園	
絶滅の恐れのある希少動物の保護・繁殖等の“種の保存”		環境省レッドデータブックで絶滅危惧ⅠA類に分類されているスイゼンジノリの保護・養殖	動植物園植物ゾーン	動植物園植物ゾーン日本庭園にて栽培試験を実施	動植物園植物ゾーン日本庭園にて栽培試験を実施	0	0	継続して栽培試験を実施予定	継続	→				無	経済観光局	動植物園	
絶滅の恐れのある希少動物の保護・繁殖等の“種の保存”		タナゴ類の繁殖床になるドブガイの繁殖に国内で初の成功、現在も繁殖継続	動植物園動物資料館	資料館水槽で飼育・繁殖継続	資料館水槽で飼育・繁殖継続	707 園全体の 原材料費	714 園全体の 原材料費	ドブガイの飼育に適した飼育用水の取水が安定していないため、繁殖が安定しない地震後死滅したため、再度繁殖予定	死滅 休止	再開	→			無	経済観光局	動植物園	
生物多様性保全推進支援事業		ニホンイヌワシの生息域外保全事業	動植物園動物ゾーン	イヌワシの飼育繁殖技術を導入するため、飼育繁殖実績のある園へ職員を派遣し、視察及び研修を実施	・講師招聘による繁殖繁殖技術研修を開催予定	318 (環境省からの 交付金の全額)	94 (環境省からの 交付金の全額)	イヌワシ飼育繁殖実績のある園から講師を招き、繁殖技術研修を実施予定。 今後もイヌワシの生息域外保全を目的とした繁殖及び普及啓発を進める。			開始	継続	→	無	経済観光局	動植物園	
生物多様性保全推進支援事業		トサンミズサンショウウオの生息域外保全事業	動植物園動物ゾーン	・飼育繁殖に向けた環境整備 ・展示用看板の制作及び設置 ・繁殖技術研修(出張: わんぱくこうちアニマルランド)	・飼育繁殖に向けた環境整備 ・展示用看板の制作及び設置 ・繁殖技術研修(出張: わんぱくこうちアニマルランド)	40 (環境省からの 交付金の全額)	1,736 (環境省からの 交付金の全額)	継続して飼育・繁殖を実施予定				開始	継続	無	経済観光局	動植物園	

2. 多様な自然環境の保全

1) 環境保護地区等の適切な保全、維持管理の推進(より適切な保全・維持管理の実施に向けた手法の検討等)

									今後のスケジュール(予定)								
事業・取組	細事業	事業・取組の内容(概要)	実施エリア	R1年度の実施状況	R2年度の実施予定	R1事業費 (千円)	R2予算内示額 (千円)	課題・今後の見通し	H28	H29	H30	R1	R2	数値目標 (別途あれば)	局	課	備考
自然環境 保全事業	自然環境 保全経費	・環境保護地区 市域に残る良好な緑地を「環 境保護地区」として指定し、 保全する。ふるさとの森基金 の運用益等により所有者等 に対して交付金等を交付して いる。	熊本市全 域	環境保護地区を大切に保全 し、後世に引き継いでいくた め、ふるさとの森基金を活用 し、指定交付金等の助成を 行う(3/31交付額の確定、4 月以降に順次交付予定)。 ・損害賠償保険料:148千円 (対人5億円限度、対物1億円 限度)	環境保護地区を大切に保全 し、後世に引き継いでいくた め、ふるさとの森基金を活用 し、指定交付金等の助成を 行う(3/31交付額の確定、4 月以降に順次交付予定)。 ・損害賠償保険料:148千円 (対人5億円限度、対物1億円 限度)	7,682	7,726	これまで地権者の理解と協 力を得て大切に守られてきた 環境保護地区については、 一部で、土地所有者の高齢 化などによる管理不足の指 摘もあることから、管理実態 の把握と、効果的な維持管 理の手法などを含め今後の 制度のあり方を検討してい く。	継続	見直し の検 討	見直し の検 討	➡		無	環境局	環境共生 課	
自然環境 保全事業	保存樹木 等保全経 費	・健軍タブノキの保全 地元住民と連携し、地元の象 徴的なタブノキを保全してい る	東区健軍 3丁目	跡地の利用について検討し ていく。				今後は、跡地の利用につい て検討していく。	継続	倒木・ 撤去	木材・ 跡地 の利 用の 検討	➡		無	環境局	環境共生 課	「学び、つ ながる」再 掲
自然環境 保全事業	立田山管 理経費	・立田山憩の森の保全管理 生活環境保全林の保全管理 (下草刈、清掃、施設の維持 管理や希少種の保護等)を 実施。	立田山憩 の森	立田山憩の森において、下 草刈や樹木の支障枝の剪 定、施設の維持管理など、適 正な保全管理を実施する。	立田山憩の森において、下 草刈や樹木の支障枝の剪 定、施設の維持管理など、適 正な保全管理を実施する。	23,200	23,460	今後も適正な維持管理に努 め、多くの市民に緑豊かな憩 の森として快適な緑地の提 供を行っている。	継続	➡				無	環境局	環境共生 課	
自然環境 保全事業	金峰山等 森林管理 経費	・金峰山等森林管理 金峰山周辺にある国や民有 地と分収林契約を締結し、市 で造林を行った林地について 保育管理を実施(183. 31ha)。	金峰山周 辺	農水局へ業務を移管する予 定 農水局へ業務を移管した。	農水局へ業務を移管した。	0	0	農水局へ業務を移管する予 定	継続	➡				無	環境局	環境共生 課	

2) 放置竹林対策の効果的な手法の検討・推進、農地の多面的機能の維持・発揮の取組、耕作放棄地の再生利用の推進等による里地里山の保全

事業・取組		細事業	事業・取組の内容(概要)	実施エリア	R1年度の実施状況	R2年度の実施予定	R1事業費 (千円)	R2予算内示額 (千円)	課題・今後の見通し	今後のスケジュール(予定)					H28	H29	H30	R1	R2	数値目標 (別途ありは)	局	課	備考
自然環境 保全事業	自然環境 保全経費		・放置竹林整備モデル事業 里地・里山で長年人の手入 れがなされず放置されている 竹林の整備を行う団体へ助 成し、モデル事業を抽出す る。放置竹林モデル事業の 実施と成果を踏まえた管理 手法・体制の検討を実施予 定。	西区池田 2丁目外5 箇所	森林・山村多面的機能発揮 対策事業を活用して、放置竹 林対策を実施する市内13団 体に対して、助成を行う予 定。同事業の取組団体を主 体とした連絡会議を設置し、 対策の継続・区域拡大を図 る。	森林・山村多面的機能発揮 対策事業を活用して、放置竹 林対策を実施する市内12団 体に対して、助成を行う予 定。市民協働による放置竹 林対策の推進に向けたモデ ル事業(竹処理関連機器の レンタル等を含む)を実施予 定。			森林・山村多面的機能発揮 対策事業を活用して、放置竹 林対策の効果的な整備の事 例収集を行う。	実施 6団体 事例の紹 介	実施 3団体	事業 の検証・検 討	放置 竹林 対策 連絡 会議 設置	➡ 拡大 推進 ➡	無		農水局 (R1年度 事業移 管)	農業政策 課(森づく り推進室)	「守る」再 掲				
公園維持 管理事業	公園維持 管理経費		本市の緑の骨格として貴重 な緑である託麻三山のうち、 神園山小江山緑地につい て、良好な環境を保全すると ともに、地域コミュニティの構 築及び住民の地域に対する 愛着を深めることを目的とし て、委託契約及びボランティ ア協定を締結し「市民協働に よる里山づくり」を進めてい る。	神園山小 江山緑地	地域住民への委託契約によ る下草刈及びボランティア協 定による苗木の植え付け、公 園の利用促進に関する活動 、清掃等を実施。 市では竹伐採等を実施。	地域住民への委託契約によ る下草刈及びボランティア協 定による苗木の植え付け、公 園の利用促進に関する活動 、清掃等を実施。 市では竹伐採等を実施予 定。			神園山小江山緑地は、NPO 等の団体も活動しており、各 団体の調整を図りながら良 好な環境を保全していく必要 がある。 今後也多様な団体と協働しな がら、事業を継続していく。	継続	➡				無		都市建設 局	東部土木 センター 河川公園 整備課	「学び、つ ながる」再 掲				
公園維持 管理事業	公園維持 管理経費		本市の緑の骨格として貴重 な緑である託麻三山のうち、 戸島山緑地について、良好 な環境を保全するとともに、 地域コミュニティの構築及び 住民の地域に対する愛着を 深めることを目的として、委 託契約及びボランティア協定 を締結し「市民協働による里 山づくり」を進めている。	戸島山緑 地	地域住民への委託契約によ る除草及びボランティア協 定による竹伐採、清掃、緑地 利用促進に関する活動を実 施。	地域住民への委託契約によ る除草及びボランティア協 定による竹伐採、清掃、緑地 利用促進に関する活動を実 施予定。			今後也多様な団体と協働しな がら、事業を継続していく。	実施 【新規】	継続	➡			無		都市建設 局	東部土木 センター 河川公園 整備課	「学び、つ ながる」再 掲				
集落機能 の維持・ 活性化事 業	多面的機 能支払交 付金事業		・多面的機能の維持・発揮 地域共同により農用地、水 路、農道等の地域資源の基 礎的な保全管理活動及び地 域資源の適切な保全管理の ための推進活動に取組む組 織に対して交付金を交付して いる。	熊本市内 の農振農 用地ほか	熊本市秋津地域農地・水環 境保全管理協定ほか27組織 が継続して活動を行った。 対象農用地面積7,867ha。	熊本市秋津地域農地・水環 境保全管理協定ほか27組織 が継続して活動を行う予定。 また、1組織が新たに活動 を行う予定。 対象農用地面積7,913ha。	604,898	642,433	本事業は5ヵ年事業であり、 全28組織のうち2つの活動組 織がR元年度で終期を迎え る。R2年度以降の5ヵ年も計 画を更新し活動を継続する。 また、R2年度より1組織が新 たに活動を開始する予定。	継続	➡			市内農振 農用地面 積の80% ※達成済		農水局	農地整備 課 北東部農 業振興セ ンター基 盤整備課 西南部農 業振興セ ンター基 盤整備課						
耕作放棄 地再生利 用緊急対 策交付金 事業(国 事業)			・耕作放棄地再生利用緊急 対策事業 耕作放棄地を営農可能な状 態にするための取組を行う者 (農業者個人、法人等)に 対し、その取組や必要な施設 の補完整備等に要する経費 について交付金を交付してい る。	西区河内 地区ほか	事業廃止	-			H30年度国事業については、 新制度の「荒廃農地等利活 用促進事業」へ移行となり、 当該事業は継続分のみの実 施となった。	実施	継続	継続 事業 のみ 実施	廃止	-	無		農水局	農業政策 課					
荒廃農地 等利活用 促進事業 (国事業)			・荒廃農地等利活用促進事 業 農業者等が荒廃農地を借り 受けて行う、作物生産を再開 するための再生利用活動や 荒廃農地の発生防止活動に 要する経費について交付金 を交付している。	南区飽田 地区	事業廃止	-			荒廃農地等利活用促進事業 (国事業)については、H30年 度限りで廃止となった。	-	-	新制 度の 運用	廃止	-	無		農水局	農業政策 課					

3) 関係機関と連携した有明海の漁場環境の保全

事業・取組	細事業	事業・取組の内容(概要)	実施エリア	R1年度の実施状況	R2年度の実施予定	R1事業費 (千円)	R2予算内示額 (千円)	課題・今後の見通し	今後のスケジュール(予定)					数値目標 (別途あれば)	局	課	備考
									H28	H29	H30	R1	R2				
漁業生産振興事業	漁場環境保全対策推進経費	漁協が行う水域環境・漁場環境保全に関する取組を支援することで、ノリ、アサリ、ハマグリなどの主要水産物の安定的な生産を図るとともに、魚類・甲殻類の幼稚仔の生息しやすい環境を維持する。	有明海 (市管内地先漁場)	-	-			事業内容が重複するため、水産多面的機能発揮対策事業へ統合	実施	廃止	-	-	-	無	農水局	水産振興センター	「活かす」再掲
漁業生産振興事業	水産多面的機能発揮対策事業	活動組織(漁業者等)が行う耕うん、保護区設定、生物除去等の水域環境・漁場環境保全に関する取組を支援することで、ノリ、アサリ、ハマグリなどの主要水産物の安定的な生産を図るとともに、魚類・甲殻類の幼稚仔の生息しやすい環境を維持する。	有明海 (管内地先漁場)等	前年度の結果及び実績を踏まえて計画された平成31年度(2019年度)事業を各活動組織が実施中。	前年度の結果及び実績を踏まえて計画された令和2年度(2020年度)事業を各活動組織が実施予定。	7,261	7,261	当該事業は国の補助事業であり、事業期間であるR2年度以降の事業実施については明確な方針が示されていない。	実施	→				無	農水局	水産振興センター	「活かす」再掲

4) 公共事業における環境アセスメントの実施、熊本市環境配慮指針の遵守等

事業・取組	細事業	事業・取組の内容(概要)	実施エリア	R1年度の実施状況	R2年度の実施予定	R1事業費 (千円)	R2予算内示額 (千円)	課題・今後の見通し	今後のスケジュール(予定)					数値目標 (別途あれば)	局	課	備考
									H28	H29	H30	R1	R2				
		環境配慮指針に基づく第1種事業(一定規模以上):チェックシート作成、公共事業環境配慮評価会議で審査 第2種事業(6,000万円以上):チェックシート作成	熊本市全域	第1種事業の計画提出があった場合は公共事業環境配慮評価会議で審査予定 第3種事業については、随時関係各課と協議を行う。	第1種事業の計画提出があった場合は公共事業環境配慮評価会議で審査予定 第3種事業については、随時関係各課と協議を行う。	0	0	内容をより判りやすく改訂し、掲載の環境配慮技術の更新についても、関係各課との継続的な検討を行っていく。	継続	→				無	環境局	環境政策課	
		熊本地震で甚大な被害を受けた水前寺江津湖公園(擁壁、法面等)について、できる限り環境等に配慮した工法を検討し、その後の復旧工事につなげる。 (※基本は原型復旧)	水前寺江津湖公園	-	-			H29年度竣工。	計画施工	竣工	-	-	-	無	都市建設局	公園課	
環境に配慮した河川整備の推進	広域河川整備経費	一級河川健軍川、藻器堀川、鶯川の設計・改修にあたり多自然川づくりを実施している。	-	-	-	0	0	熊本市公共事業環境配慮指針に基づき、事業計画及び整備実施の各段階で環境に配慮した取組を行っていく。	随時	→				無	都市建設局	東部土木センター 河川公園整備課	

3. 外来種対策の実施

1) 特に対策が必要な侵略的外来種のリスト化と対策の方向性の整理、ペットや国内由来の外来種の取り扱いも含めた普及啓発

									今後のスケジュール(予定)					数値目標 (別途あれば)	局	課	備考
事業・取組	細事業	事業・取組の内容(概要)	実施エリア	R1年度の実施状況	R2年度の実施予定	R1事業費 (千円)	R2予算内示額 (千円)	課題・今後の見通し	H28	H29	H30	R1	R2				
※検討中		対策すべき侵略的外来種とその対策の方向性の整理(リストアップ)	熊本市全域	検実施なし	検討中	0	0	取組は必要だが、優先順位を付け進めていく。	—	検討	➡			無	環境局	環境共生課	
自然環境保全事業	自然環境保全経費	・外来生物対策(オオキンケイギク) 特定外来生物オオキンケイギクの市民への周知、啓発を実施	熊本市全域	・市ホームページへの周知・啓発記事の掲載やイベントでの啓発を実施した。 ・市民からの情報提供に対する調査や所管部署への情報提供を実施した。	・市ホームページへの周知・啓発記事を掲載する。また5月開催の生物多様性の日イベントにおいて、身近な外来種としてオオキンケイギクの展示を行う。 ・市民からの情報提供に対する調査や所管部署への情報提供を継続する。	0	0	・オオキンケイギクについての周知・啓発、駆除の依頼等を継続して実施していく。 ・私有地に生育している場合の対処が課題である。	継続	➡			無	環境局	環境共生課		
自然環境保全事業	自然環境保全経費	・外来生物対策(ヒアリ・ツマアカスズメバチ) 特定外来生物のヒアリ・ツマアカスズメバチの侵入監視、及び市民への周知、啓発を実施	熊本市全域	・ツマアカスズメバチについて、熊本港でのトラップ設置による生息調査(環境省調査、5月・9月)を実施した。 ・ヒアリについて、ホームページへの注意喚起及び情報提供の記事掲載により周知した。また市民からの相談対応を関係部署と連携して実施した。	・ツマアカスズメバチについて、引き続き熊本港でのトラップ設置による生息調査(環境省調査、春季・夏季)を実施する。 ・ヒアリについて、ホームページへの注意喚起及び情報提供の記事掲載により周知する。また市民からの相談対応は関係部署と連携して実施する。	0	0	・引き続き侵入監視や情報提供、関係部局と連携した市民対応を実施する。	継続	➡			無	環境局	環境共生課		
自然環境保全事業	生物多様性保全推進経費	外国産ペット(爬虫類・魚類・水草)の取扱いの普及啓発	熊本市全域	・外国産ペットの適正飼育について掲載した生物多様性副読本「いきものさがし」を市立小学生4年生全員に配布した。	・外国産ペットの適正飼育について掲載した生物多様性副読本「いきものさがし」を市立小学生4年生に配布する。 ・イベント等での展示や関係機関との連携により、啓発・周知する。	0	0	・副読本の活用、イベント等での展示や関係機関との連携により、啓発・周知する。	継続	➡			無	環境局	環境共生課		
		・外来生物対策(セアカゴケグモ) 特定外来生物セアカゴケグモの市民への周知、啓発を実施する。	熊本市全域	市政だより、市ホームページ、ラジオ等を通して、セアカゴケグモの情報を発信する。	市政だより、市ホームページ、ラジオ等を通して、セアカゴケグモの情報を発信する。	0	0	継続実施。	継続	➡			無	健康福祉局	生活衛生課		
	動物愛護推進経費	特定動物飼養許可施設における飼養管理確認のため立入を行う	熊本市内	特定動物不適正飼養に伴う逸走防止のため、年1回立入し、必要に応じて指導を行った。	特定動物飼養施設への立ち入り指導を継続して行う。	0	0	立入指導や啓発を継続し、逸走防止を図っていく。	4	4	6	6	7	年1回	健康福祉局	動物愛護センター	

2) 対策の緊急性が高い外来種に対する関係機関と連携にした計画的かつ効果的・効率的な防除の実施(スパルティナ属、江津湖の水草・魚類、セアカゴケグモ等)

事業・取組	細事業	事業・取組の内容(概要)	実施エリア	R1年度の実施状況	R2年度の実施予定	R1事業費 (千円)	R2予算内示額 (千円)	課題・今後の見通し	今後のスケジュール(予定)					数値目標 (別途あれば)	局	課	備考
									H28	H29	H30	R1	R2				
自然環境 保全事業	自然環境 保全経費	・江津湖地域の指定外来魚の巡視、回収業務 江津湖地域における特定外来生物等による生態系等に係る被害の防止に関する条例の施行に伴う指定外来魚の巡視、回収を実施	江津湖地域	業務委託により、釣り人の巡視や釣り上げた指定外来魚の回収・処分を行うとともに、釣り人に対し条例周知のためのリーフレット配布を行う。 R1年度実績(R2年2月まで)は、指定外来魚115匹、約56kgを回収し、全て肥料用として専門業者に提供した。	業務委託により、釣り人の巡視や釣り上げた指定外来魚の回収・処分を行うとともに、釣り人に対し条例周知のためのリーフレット配布を行う。	2,730	2,875	今後、釣り人や電気ショックカー船による指定外来魚の回収実績等をもとに、条例の効果を検証していく必要がある。 また、釣り人の更なる協力を得るための対策の検討が必要。	継続	→				無	環境局	環境共生課ほか	
自然環境 保全事業	自然環境 保全経費	・江津湖地域における外来魚駆除及び魚類生息状況調査業務 電気ショックカー船を用い、指定外来魚の駆除に加え、四季毎の魚類の生息状況を調査する。指定外来魚について、タモ網で捕獲後、全長、体長、重量を計測する。指定外来魚以外の魚について、目視で魚の種類を識別し、記録する。	江津湖地域	業務委託により、電気ショックカー船を用い、年3回の魚類生息状況調査及び年20回の外来魚駆除を実施した。 R1年度の指定外来魚の捕獲実績(R2年2月まで)は、魚類生息状況調査では160匹、外来魚駆除では535匹を捕獲し、肥料用として専門業者に提供、研究材料として大学に提供した。	業務委託により、電気ショックカー船を用い、年4回の魚類生息状況調査及び年20回の外来魚駆除を実施予定。	3220 (1610上下水道局負担金)	3808 (1/2は上下水道局負担金)	今後、釣り人や電気ショックカー船による指定外来魚の回収実績等をもとに、条例の効果を検証していく必要がある。	継続	→				無	環境局	環境共生課ほか	
自然環境 保全事業	自然環境 保全経費	・外来生物対策(スパルティナ属) 特定外来生物スパルティナ属対策検討会に加入し、他部署と連携して防除策を検討	埤井川、白川など	今後、協議会構成員等との連携を継続する。 令和2年1月、熊本県特定外来生物スパルティナ属対策協議会に出席。 再生状況の確認を行った。	今後、協議会構成員等との連携を継続する。	0	0	今後、協議会構成員等との連携を継続する。	休止	再開	継続	→		根絶	環境局	環境共生課	
漁業生産 振興事業	外来魚駆除対策経費	繁殖力が強く、内水面資源の減耗の原因となっているブラックバス、ブルーギル等の肉食性外来魚の捕獲を行う。	江津湖地域	該当事業なし	該当事業なし	0	0	H29年度以降は、環境共生課の事業へ統合	休止	廃止	—	—	—	無	農水局	水産振興センター	
外来植物 の除去	水前寺江津湖公園指定管理経費	指定管理業務の中で水前寺江津湖公園の湖面及び水辺に繁茂する外来植物の除去を行う。	水前寺江津湖公園区域の水面	・指定管理者において水草刈取り船及び和船、人力により水草回収作業を実施。 ・市民団体・市民ボランティア活動により水草回収作業を実施。(回収した水草の搬出は指定管理者が実施)	・指定管理者において水草刈取り船及び和船、人力により水草回収作業を実施予定 ・市民団体・市民ボランティア活動により水草回収作業を実施予定(回収した水草の搬出は指定管理者が実施)	41,700	41,700	・廃棄物処理料の不足のため、回収できる量に限界が出ている。	継続	→				無	都市建設局	東部土木センター 河川公園整備課	
		・外来生物対策(セアカゴケグモ) 関連部署と連携し、通報等によりセアカゴケグモの生息を確認した際はその場で駆除を実施する。	セアカゴケグモの発生場所及び周辺	新たな地域でセアカゴケグモの生息を確認した際は、その場で駆除し、土地管理者等へ今後の駆除の指導を行った。併せて、周辺地域へ注意喚起を行い、健康被害の発生を予防した。	新たな地域でセアカゴケグモの生息を確認した際は、その場で駆除し、土地管理者等へ今後の駆除の指導を行う。併せて、周辺地域へ注意喚起を行い、健康被害の発生を予防する。	0	0	セアカゴケグモの生息域が拡大傾向にある中、健康被害の発生を防ぐためには、セアカゴケグモを発見した際の駆除の方法を周知すると共に、予防の知識を広く普及する必要がある。	継続	→				無	健康福祉局	生活衛生課	
		・特定外来生物対策(ヒアリ) 市民からの特定外来生物(ヒアリ)の相談について、他の害虫等に関する相談業務と同様に対応する。	熊本市全域	在来種のアリの相談対応と同様に、対応可能な範囲で、顕微鏡等を用いてヒアリの相談に対応した。	在来種のアリの相談対応と同様に、対応可能な範囲で、顕微鏡等を用いてヒアリの相談に対応する。	0	0	継続実施。		→				無	健康福祉局	生活衛生課	

3) 特に大きな被害が想定される外来種に係る市民・団体・専門家等と連携した広域的なモニタリング体制の構築(アライグマ等)

									今後のスケジュール(予定)								
事業・取組	細事業	事業・取組の内容(概要)	実施エリア	R1年度の実施状況	R2年度の実施予定	R1事業費 (千円)	R2予算内示額 (千円)	課題・今後の見通し	H28	H29	H30	R1	R2	数値目標 (別途あれば)	局	課	備考
自然環境 保全事業	自然環境 保全経費	特定外来生物のアライグマによる被害防止を目的とした分布の把握及び侵入監視のための生息調査及び情報収集	熊本市全域	・自動撮影カメラによる生息状況調査を実施(R1年7月～R2年2月)し、北区で15例生息が確認された。加えて市民等からの通報により3例生息が確認された。 ・生息が確認された地点には箱わなを設置し、R1年11月に1頭(成獣・オス)を捕獲した。 ・市ホームページへのアライグマに関する記事掲載等により、市民への周知と情報収集を実施した。 ・周辺地域(玉東町・玉名市・宇土市・宇城市)と連携し、調査状況や捕獲状況等の情報を共有した。 ・市民からの相談や情報提供については、必要に応じ、鳥獣対策室と連携した対応を行った。 ・熊本市及び近隣市町の行政職員や捕獲従事者(猟友会等)を対象としたアライグマ防除講習会を2回開催した。 ・アライグマ防除に関する会議や講習会等に参加し、情報収集を行った。	・引き続き、自動撮影カメラによる生息状況調査と、確認された地点においては箱わなによる捕獲調査を実施する。 ・市ホームページへの記事掲載やチラシ等、イベントでの展示等により、市民への周知と情報収集を行う。 ・周辺地域(特に県北地域)でのアライグマ確認事例が増加していることから、周辺自治体との連携した調査や情報共有等、連携体制の構築に努める。 ・市民からの相談や情報提供については、必要に応じ、関係部署と連携した対応を行う。 ・アライグマ防除に関する会議や講習会等に参加し、情報収集に努める。			市内での確認件数が増加傾向にあり、市内での分布の拡大及びそれに伴う被害の発生が懸念されるため、今後も継続して侵入監視を行う必要がある。	検討	講習会実施・監視体制構築	実施	→	無		環境局	環境共生課	「知る」再掲
自然環境 保全事業	自然環境 保全経費	スパルティナ・ヒアリ・クリハリス等の特定外来生物について、分布情報の把握及び市民からの相談対応	熊本市全域	・ヒアリについては、引き続き生活衛生課及び熊本博物館と連携した市民相談対応及び情報収集を行う。	・ヒアリについては、引き続き生活衛生課及び熊本博物館と連携した市民相談対応及び情報収集を行う。			引き続き侵入監視を行うと共に、市民からの通報に対し、関係機関と連携した対応を行う。	検討	実施	→	無		環境局	環境共生課	「守る」再掲	

安定した農業生産・集出荷の推進及び鳥獣による市民への直接の被害防止	農作物鳥獣被害対策事業、鳥獣被害対策事業(生活被害対策)	農作物被害や生活被害を及ぼすイノシシをはじめとした鳥獣類の駆除のほか、県や他市町村、環境局と連携しクリハラリスやアライグマなどの外来生物の侵入を監視。特に、アライグマの生息が確認されている地区においては、農業者や関係機関の普及員、営農指導員、駆除隊と連携し、目撃情報や疑わしき被害などの情報収集に努め、監視体制の構築を図る。	熊本市全域	アライグマについては、環境局が取組む生息状況調査を注視するとともに、農業者、農業団体、駆除隊などに対して、特徴・見分け方等を周知し、発見時の情報提供を呼びかけた。また、目撃情報や疑わしき被害が寄せられた場合は、環境局と連携し、現地確認・調査等を実施した。	アライグマについては、環境局が取組む生息状況調査を注視するとともに、農業者、農業団体、駆除隊などに対して、特徴・見分け方等を周知し、発見時の情報提供を呼びかける。また、目撃情報や疑わしき被害が寄せられた場合は、環境局と連携し、現地確認・調査等を実施する。			今後も引き続き、アライグマの目撃情報や生息痕跡等の収集に努め、関係部局との情報共有を図り、被害防止対策を進める。	住宅地、通学路等におけるイノシシやシカ等の野生動物の出没件数が増加していることから、今後も引き続き関係機関と連携し被害未然防止対策の普及・啓発に努めるとともに、捕獲による個体数管理に取り組む。	継続							無	農水局	農業支援課鳥獣対策室	
-----------------------------------	------------------------------	--	-------	---	---	--	--	--	--	----	--	--	--	--	--	--	---	-----	------------	--

4) 施設等の管理における外来種の侵入・拡大防止の対策の実施(オオキンケイギクの駆除等)

事業・取組	細事業	事業・取組の内容(概要)	実施エリア	R1年度の実施状況	R2年度の実施予定	R1事業費 (千円)	R2予算内示額 (千円)	課題・今後の見通し	今後のスケジュール(予定)					数値目標 (別途ありば)	局	課	備考
									H28	H29	H30	R1	R2				
街なかの緑創出事業	屋上等緑化経費	・屋上等緑化助成制度 中心市街地の新たな緑の創出とヒートアイランド現象の緩和、CO2の吸収を図るため、屋上、壁面を緑化される方に対し助成制度を設けている。	熊本市内の市街化区域	屋上緑化の助成事業については、復興期間中のため事業休止。	屋上緑化は壁面等緑化助成制度として、事業を開始する。	0	1,000	屋上緑化の助成事業については、復興期間中の事業休止へ。	休止				再開	無	環境局	環境共生課	「創る」再掲
街なかの緑創出事業	緑化推進経費	・公共地緑化事業 地域の核となる学校・公共施設の緑化を実施。	熊本市内小学校	植栽工事については、H28年度の要望調査をもとに、優先度の高い公共施設を選定し実施予定。	廃止	600	0	復興期間中については、H28年度の要望調査をもとに、優先度の高い公共施設を選定し、植栽工事を実施していく。 規模は縮小。	縮小実施				実施	無	環境局	環境共生課	「創る」再掲
街なかの緑創出事業	緑化推進経費	・漱石の森づくり事業 個人住宅や共同住宅又は、事業所に樹木、生垣の植栽を行う民有地の緑化に対して助成を実施。	熊本市全域	つながりの森づくり事業について、見直しを行い、事業所の緑化面積の下限の緩和および補助金の上限の引き上げを行った(事業所の敷地に植栽面積30㎡以上→植栽面積15㎡以上に改定。補助金上限額15万円→30万円に改定)	引き続き、個人住宅・事業所において、樹木・生垣の植栽に対する補助を行う。	4,500	3,500	引き続き、事業のPRを積極的に行い、生き物の生息・生育地となる緑地の創出に努める。	継続					800㎡ (緑の創出)	環境局	環境共生課	「創る」再掲
街なかの緑創出事業	緑化推進経費	・記念樹配布 結婚、誕生、新築、銀婚といった人生の節目に記念樹を配布。	熊本市全域	R1年度も年1回の配布を予定。	R2年度も年1回の配布を予定。	1,000	750	記念樹配布事業については、今後も継続して行う予定だが、H29年度から年1回の配布実施とする。	継続					配布数 1,000本	環境局	環境共生課	「創る」再掲
街なかの緑創出事業	緑化推進経費	・緑化市民運動 自治会や団体で行う緑化運動に対し、樹木等の材料を提供し、地域での緑化に対する意識の高揚を図る。	熊本市全域	地域の緑化活動は、景観の向上や緑の増量だけでなく、まちづくり・人づくりの素材として、引き続き事業を継続する。	地域の緑化活動は、景観の向上や緑の増量だけでなく、まちづくり・人づくりの素材として、引き続き事業を継続する。	900	500	景観の向上や緑の増量だけでなく、まちづくり・人づくりの素材にも寄与する事業として今後も継続する。	継続					無	環境局	環境共生課	「創る」再掲

4. 広域的な視点での保全対策の実施

1) 熊本地域における地下水保全対策と連携した広域的な生物多様性保全対策の推進(水源かん養林の整備、湛水事業の推進、水田等の農地の保全、硝酸性窒素削減対策の着実な推進等)

事業・取組	細事業	事業・取組の内容(概要)	実施エリア	R1年度の実施状況	R2年度の実施予定	R1事業費 (千円)	R2予算内示額 (千円)	課題・今後の見通し	今後のスケジュール(予定)					数値目標 (別途ありば)	局	課	備考
									H28	H29	H30	R1	R2				
地下水量保全対策経費	水源かん養林整備経費	森林の持つ水源かん養機能(水資源貯留、水量調節、水質浄化、洪水緩和等)を高度に発揮させるため、河川上流域の水源地域において地下水保全を目的とした森林づくりを推進する。第6次水源涵養林整備計画(H26～R5を策定し、市街地を貫流し本市の地下水とも関連の深い白川上流域において、新規造林事業(約76ha)を実施するほか、併せて、既存の森林の保育管理(下刈、間伐等)を実施するもの。	大津町、西原村、南阿蘇村	R1年度は、西原村において、原野約5.0haの新規造林を実施したほか、約60haの下草刈及び保育管理を実施。	R2年度は、西原村において、原野約4.0haの新規造林を実施したほか、約50haの下草刈等の保育管理を実施。	45,300	40,600	平成28年熊本地震の影響で新規造林計画を5ヶ年から10ヶ年に延長したため、令和5年度まで計画的に新規造林を実施していく。	継続					無	環境局	水保全課	
地下水量保全対策経費	白川中流域かん養推進経費	地下水量の保全を目的に、本市の地下水の増加に最も寄与する度合いが高い白川中流域の転作田において、営農の一環として行われる湛水に対し、本市が助成金を交付し、地下水のかん養を図っていくもの。	白川中流域(大津町、菊陽町、熊本市東部地域)	R1年度は、白川中流域での湛水事業を平成28年熊本地震前以上の水準を目指したが、梅雨時期の少雨の影響で農業用水が不足し事業開始以来最長の湛水休止(16日間)期間が発生しかん養量は約1,149万トンであった。	R2年度は、湛水期間の細分化及び延長を行い、1,710万トン(570ha)のかん養量を目指す。	50,100	56,400	協力農家の皆様が湛水事業に参加しやすい制度を今後も、水循環型営農推進協議会と協力しながら検討していく。	継続					人工かん養量 1,710万トン／年	環境局	水保全課	
広域連携協働事業	広域水保全対策運営経費	熊本地域が一体となって地下水保全対策を推進するため、熊本県、熊本地域11市町村、くまもと地下水財団、事業者、住民と協働し広域的な取組を展開。	熊本地域11市町村	くまもと地下水財団「第1次中長期基本計画」に基づき、公益目的4事業を推進する。 ・地下水環境調査研究事業 ・地下水質保全対策事業 ・地下水涵養推進事業 ・地下水採取・使用適正化推進事業	くまもと地下水財団「第1次中長期基本計画」に基づき、公益目的4事業を推進する。 ・地下水環境調査研究事業 ・地下水質保全対策事業 ・地下水涵養推進事業 ・地下水採取・使用適正化推進事業			熊本県、熊本地域11市町村、くまもと地下水財団が更なる連携を図り、恵まれた水資源を後世に守り伝える。	継続					無	環境局	水保全課	「学び、つながる」再掲
広域連携協働事業	白川中流域かん養推進経費	本市にとって重要な地下水かん養域である白川中流域において、次世代を担う子供たちが、田植えや稲刈り等の農業体験を通じて、農業がもたらす地下水への効果を学習し、併せて、流域の交流を進めることにより、将来へと続く相互理解を深めるもの。	白川中流域(大津町、菊陽町)	白川中流域水土里ネット協議会を中心として、熊本市内の小学5年生と保護者、菊陽町及び大津町の小学生に参加を呼びかけてもらい、農業体験を7月に実施。	白川中流域水土里ネット協議会を中心として、熊本市内の小学5年生と保護者、菊陽町及び大津町の小学生に参加を呼びかけてもらい、農業体験実施予定。			本市にとって重要な地下水かん養域である白川中流域において、次世代を担う子供たちに田植えや稲刈り等の農業体験を通じて、農業がもたらす地下水への効果を学習し、併せて、流域の交流を進めることにより、将来へと続く相互理解を深めるため、当該活動を継続して実施していくことが必要である。	休止	再開(不参加)			参加(台風のため中止)	無	環境局	水保全課	「学び、つながる」再掲

広域連携 協働事業	水源の森 づくりボラ ンティア 活動経費	熊本地域の地下水の現状に ついて認識を深めるととも に、森林作業(植付・下刈・間 伐・枝打等)や上流域でのふ れあい活動(林産品等の加 工等)を通じて、山林を保全 するために必要とされる知 識・技術の習得を通じ、ボラ ンティアの育成を図るもの。	大津町、 西原村、 南阿蘇村	熊本地震の復興を優先させ るため、平成31年度も活動 を休止するもの。	年2回を目標に、熊本地域の 地下水の現状について認識 を深めるとともに、森林作業 (植付・下刈・間伐・枝打等) や上流域でのふれあい活動 (林産品等の加工等)等を実 施予定。			熊本地震からの復旧・復興を 優先させることから、当該事 業を一時休止していたが、活 動場所である森林の状況 や、活動内容を再検討し、令 和2年度から事業を再開す る。	休止					再開	無	環境局	水保全課	「学び、つ ながる」再 掲
地下水を 育む取組	水道事業 会計	・地下水かん養事業 林野庁の法人の森林制度を 活用し、「熊本市水道の森」 を開設。更なる地下水かん 養林の保全に取り組むととも に、健全な水循環の重要性 について普及啓発を行うも の。	阿蘇郡 西原村	公益財団法人熊本市上下水 道サービス公社が実施する バスツアーにおいて熊本市 水道の森を現地訪問すると ともに、上下水道局の地下水 かん養事業や健全な水循環 の重要性について参加者に 説明を実施。	公益財団法人熊本市上下水 道サービス公社が実施する バスツアーにおいて熊本市 水道の森を現地訪問すると ともに、上下水道局の地下水 かん養事業や健全な水循環 の重要性について参加者に 説明を実施。	0		引き続き、バスツアー等を通 じて現地で上下水道局が実 施している地下水かん養事 業や健全な水循環の重要性 について啓発を行う。	継続						無	上下水道 局	経営企画 課	

2) 阿蘇地域の草原の保全につながる取組の推進(動植物園におけるゾウの餌としての野草利用等)

事業・取組	細事業	事業・取組の内容(概要)	実施エリア	R1年度の実施状況	R2年度の実施予定	R1事業費 (千円)	R2予算内示額 (千円)	課題・今後の見通し	今後のスケジュール(予定)					数値目標 (別途あり)	局	課	備考
									H28	H29	H30	R1	R2				
動植物の 生態・習 性及び繁 殖につい ての”調 査・研究”		・大学等研究機関との共同 研究 ・東海大学との共催で市民向 けシンポジウム実施 ・阿蘇の野草でゾウを育て る。ゾウと地域環境の再生と 活用の取組	動植物園 動物ゾー ン 阿蘇市	・園内を利用する野生哺乳類 相に関する研究 ・園に生息する野生カメ類生 息分布及び環境選択に関す る研究 ・8月22日 高校生対象プロ グラム『今、「ふれあい」を考 える』を実施 ・3月22日 東海大学との共 催でシンポジウムを開催予 定→新型コロナウイルス感 染症の影響により中止 ・10月8日 環境省阿蘇くじ ゅう国立公園管理事務所との 共催で阿蘇西小学校におい て草原学習実施	・東海大学との共同研究を実 施予定 ・10月に環境省阿蘇くじゅう 国立公園管理事務所との共 催で草原学習実施予定(2 回) ・東海大学との共催でシンポ ジウムを開催予定	0	0	・環境省阿蘇くじゅう国立公 園管理事務所との共催で阿 蘇地域における草原学習を 継続して実施していく	休止	再開				無	経済観光 局	動植物園	

5. 環境負荷の低減を通した保全対策の実施
1) 温暖化対策と連携した生物多様性保全対策の推進

事業・取組	細事業	事業・取組の内容(概要)	実施エリア	R1年度の実施状況	R2年度の実施予定	R1事業費 (千円)	R2予算内示額 (千円)	課題・今後の見通し	今後のスケジュール(予定)					数値目標 (別途あり)	局	課	備考
									H28	H29	H30	R1	R2				
地球温暖 化防止推 進事業	低炭素都 市づくり 戦略計画 経費	全市的な温暖化対策を推進 するために、「熊本市低炭素 都市づくり戦略計画推進協 議会」をはじめとした推進体 制を通じて、戦略計画の進捗 管理や情報共有を図ってい る。	熊本市全 域	2020年度に戦略計画の期 間満了を迎えるため、計画改 訂に向けた策定委員会を開 催する。 3月18日に協議会の開催を 予定しており、アクションプ ランの進捗管理や温暖化対策 に関する情報共有、市民に 向けた情報発信の効果的な 方法等について、引き続き検 討する。	アクションプランの進捗管 理や温暖化対策に関する情 報共有、市民に向けた情報 発信の効果的な方法等につ いて、引き続き検討する。 なお、R1年度から熊本連携 中枢都市圏での地球温暖化 対策実行計画の策定を進め ており、R2年度から本計画を 統合し推進していく。	90	0	世界の気候変動状況及び国 や他都市の温暖化対策の動 向を調査するとともに、引き 続き推進体制を通じて戦略 計画の進捗管理や情報共有 を図り、行政はもとより、市民 や事業者等の役割を果たせ るよう、全市民一体となって、 温暖化対策の着実な推進を 図っていく。	継続					温室効果 ガス削減 目標 短期目標 (2020年 度):2007 年度レベ ルから△ 6.2%	環境局	環境政策 課温暖 化・エネ ルギー対 策室	
街なかの 緑創出事 業	市電緑の じゅうたん 事業	・市電緑のじゅうたん事業 市電軌道敷の緑化を図り、 維持管理を実施。	熊本駅前 ～田崎 橋、水道 町～花畑 町の計 935m	・適正な維持管理の実施 芝刈り(6回)、施肥(2回)、灌 水(16回)、人力除草(4回)	・適正な維持管理の実施 芝刈り(6回)、施肥(2回)、灌 水(16回)、人力除草(4回)	10,630	10,630	今後も継続して緑のじゅうた んの適正な維持管理に努め る。 散水軌陸車の導入により委 託料の大幅な縮減が期待で きる。	継続					無	環境局	環境共生 課	「創る」再 掲
街なかの 緑創出事 業	屋上等緑 化経費	・屋上等緑化助成制度 中心市街地の新たな緑の創 出とヒートアイランド現象の 緩和、CO2の吸収を図るた め、屋上、壁面を緑化され る方に対し助成制度を設け ている。	熊本市内 の市街化 区域	屋上緑化の助成事業につ いては、復興期間中のため事 業休止。	屋上緑化の助成事業につ いては、復興期間中のため事 業休止。	0	0	屋上緑化の助成事業につ いては、復興期間中の事業休 止へ。	休止				再開	無	環境局	環境共生 課	「創る」再 掲
街なかの 緑創出事 業	緑化推進 経費	・公共地緑化事業 地域の核となる学校・公共施 設の緑化を実施。	熊本市内 小学校	植栽工事については、H28年 度の要望調査をもとに、優先 度の高い公共施設を選定し 実施。	植栽工事については、H28年 度の要望調査をもとに、優先 度の高い公共施設を選定し 実施予定。	600	600	復興期間中については、H28 年度の要望調査をもとに、優 先度の高い公共施設を選定 し、植栽工事を実施していく。 規模は縮小。	縮小 実施				実施	無	環境局	環境共生 課	「創る」再 掲
街なかの 緑創出事 業	緑化推進 経費	・漱石の森づくり事業 個人住宅や共同住宅又は、 事業所に樹木、生垣の植栽 を行う民有地の緑化に対して 助成を実施。	熊本市全 域	つながりの森づくり事業につ いて、見直しを行い、事業所 の緑化面積の下限の緩和お よび補助金の上限の引き上 げを行った(事業所の敷地に 植栽面積30㎡以上→植栽面 積15㎡以上に改定。補助金 上限額15万円→30万円に改 定)	つながりの森づくり事業につ いて、見直しを行い、事業所 の緑化面積の下限の緩和お よび補助金の上限の引き上 げを行った(事業所の敷地に 植栽面積30㎡以上→植栽面 積15㎡以上に改定。補助金 上限額15万円→30万円に改 定)	4,500	4,500	引き続き、事業のPRを積極 的に行い、生き物の生息・生 育地となる緑地の創出に努 める。	継続					800㎡ (緑の創出)	環境局	環境共生 課	「創る」再 掲
街なかの 緑創出事 業	緑化推進 経費	・記念樹配布 結婚、誕生、新築、銀婚と いった人生の節目に記念樹 を配布。	熊本市全 域	R1年度も年1回の配布を予 定。	R2年度も年1回の配布を予 定。	1,000	1,000	記念樹配布事業につ いては、今後も継続して行う予 定だが、H29年度から年1回 の配布実施とする。	継続					配布数 1,000本	環境局	環境共生 課	「創る」再 掲
街なかの 緑創出事 業	緑化推進 経費	・緑化市民運動 自治会や団体で行う緑化運 動に対し、樹木等の材料を提 供し、地域での緑化に対する 意識の高揚を図る。	熊本市全 域	地域の緑化活動は、景観の 向上や緑の増量だけでなく、 まちづくり・人づくりの素材 として、引き続き事業を継続 する。	地域の緑化活動は、景観の 向上や緑の増量だけでなく、 まちづくり・人づくりの素材 として、引き続き事業を継続 する。	900	900	景観の向上や緑の増量だけ でなく、まちづくり・人づくり の素材にも寄与する事業とし て今後も継続する。	継続					無	環境局	環境共生 課	「創る」再 掲

2) 河川の水質汚濁防止対策による水環境の保全・化学物質の適正な使用(事業場・生活排水対策、水質調査の継続、下水道への接続、浄化槽の適切な維持管理)

事業・取組	細事業	事業・取組の内容(概要)	実施エリア	R1年度の実施状況	R2年度の実施予定	R1事業費 (千円)	R2予算内示額 (千円)	課題・今後の見通し	今後のスケジュール(予定)					数値目標 (別途あれば)	局	課	備考
									H28	H29	H30	R1	R2				
水質保全 対策事業	公共用水域 水質監視経費	水質汚濁防止法に基づき、公共用水域(河川・海域)の水質の汚濁の状況を調査し、市域の公共用水域の環境基準適合状況等を把握する。	熊本市全域	河川は27地点(環境基準点8地点・補助点19地点)、海域は4地点で水質(一部底質)調査を実施予定。				継続して調査を実施し、公共用水域の水質の状況を把握していく。	継続					無	環境局	水保全課	「知る」再掲
水質保全 対策事業	地下水水質 監視経費	水質汚濁防止法に基づき、地下水の水質調査を実施し、市域の地下水の水質の状況を把握するとともに、地下水汚染地域の継続的な監視を行う。	熊本市全域	延べ410本の井戸で水質の調査を実施予定。				継続して調査を実施し、地下水の水質の状況を把握していく。	継続					硝酸性窒素濃度10mg/Lを超過した井戸の割合5%以下(H30)	環境局	水保全課	「知る」再掲
水質保全 対策事業	化学物質 汚染調査経費	ダイオキシン類対策特別措置法に基づき、公共用水域、地下水及び土壌中のダイオキシン類の調査を実施する。	熊本市全域	ダイオキシン類は、河川2地点、海域1地点、地下水2地点、土壌2地点において調査を実施予定。				継続して調査を実施し、ダイオキシン類の状況を把握していく。	継続					無	環境局	水保全課	「知る」再掲
水質保全 対策事業	地下水浄化 対策経費	地下水の汚染が判明した地区において浄化対策を実施する。	春竹地区	引き続き、地下水浄化装置を適切に維持管理し、地下水の浄化対策を実施。	引き続き、地下水浄化装置を適切に維持管理し、地下水の浄化対策を実施予定。	1,805	1,805	地下水の環境基準の達成に至っていないため、継続して浄化対策を実施していく。	継続					無	環境局	水保全課	
水質保全 対策事業	水質汚濁 規制経費	水質汚濁防止法等で排水規制を受ける事業場に対し、事前に届出を徹底させ、施設の適正な管理を行うよう指導するとともに、立入排水検査により公共用水域等の水質の保全を図る。 また、油流出等の水質汚濁事故や苦情に対して拡散防止等の措置を行うとともに、未然防止に関する啓発を行う。	熊本市全域	引き続き、事業場が設置される際は、施設の適正管理と排水基準の遵守を指導する。また、計画的に立入排水検査等を行い、排水基準等の適合状況等を確認する。水質汚濁事故や苦情に対しては、拡散防止等の措置を行うとともに、原因者に対する指導、市政だよりやラジオ等により未然防止対策の啓発を行う。	引き続き、事業場が設置される際は、施設の適正管理と排水基準の遵守を指導する。また、計画的に立入排水検査等を行い、排水基準等の適合状況等を確認する。水質汚濁事故や苦情に対しては、拡散防止等の措置を行うとともに、原因者に対する指導、市政だよりやラジオ等により未然防止対策の啓発を行う。	805	805	排水基準違反や水質事故に対して、事前の指導や啓発活動による未然防止を図っていく。	継続					無	環境局	水保全課	
水質保全 対策事業	硝酸性窒素 削減対策経費	地下水中の硝酸性窒素削減を目的とした「第3次熊本市硝酸性窒素削減計画」に基づき、施肥対策や家畜排せつ物対策等の発生源対策を実施。特に、地下水の主要な流れに位置する東部地域における硝酸性窒素の負荷を削減する目的で、共同の家畜排せつ物処理施設の整備を進める。	熊本市全域	「第3次熊本市硝酸性窒素削減計画」に基づき、対策を推進する。また、計画の見直しを行い、「第4次熊本市硝酸性窒素削減計画」を策定する。	「第3次熊本市硝酸性窒素削減計画」に基づき、対策を推進する。また、計画の見直しを行い、「第4次熊本市硝酸性窒素削減計画」を策定する。	8,000	8,000	「熊本市硝酸性窒素削減計画」に基づき、対策を推進する。	継続					無	環境局	水保全課	
水質保全 対策事業	東部堆肥センター 管理運営経費	東部堆肥センター(家畜排せつ物処理施設)を指定管理者により管理運営し、施設の設置目的である東部地域における家畜排せつ物による地下水への窒素負荷の削減を図る。	東部地域	指定管理者による東部堆肥センターの管理運営を行い、東部地域における家畜排せつ物による地下水への窒素負荷の削減や家畜の飼養に伴う臭気の発散を軽減し、周辺環境と調和のとれた畜産業の発展を図る。	指定管理者による東部堆肥センターの管理運営を行い、東部地域における家畜排せつ物による地下水への窒素負荷の削減や家畜の飼養に伴う臭気の発散を軽減し、周辺環境と調和のとれた畜産業の発展を図る。	110,600	110,600	東部堆肥センターの適正な管理運営を行い、東部地域における家畜排せつ物による地下水への窒素負荷の削減や家畜の飼養に伴う臭気の発散を軽減し、周辺環境と調和のとれた畜産業の発展を図っていく。						無	環境局	水保全課	
地下水量 保全対策 経費	・地下水位 観測経費	地下水量保全のため地下水位の状況を常に監視するとともに、収集されたデータは将来の地下水利用に関する予測調査を行ううえで解析等に積極的に利用できるものである。現在、市内20地区に観測井戸を設置し、オンラインによる監視を行っており、これらの業務を円滑に行うための観測機器の運転及び点検・補修に関わるもの。	熊本市全域	観測業務及び保守点検業務を委託し、年間を通し、維持管理を行い、地下水位の観測を行う。	観測業務を委託し、年間を通し、維持管理を行い、地下水位の観測を行う。			地下水位データをオンラインで常時監視し公表しているが、システム機器導入から約15年経過しており、機器類の老朽化が著しいため、公表方法の見直しが必要。	継続					無	環境局	水保全課	「知る」再掲
地下水量 保全対策 経費	・地下水 採取量調査経費	熊本県及び熊本市地下水保全条例に基づく井戸の届け出が約2,240本存在し、郵送による調査を行っている。市内の地下水採取に関する用途とその採取量を全て把握することで地下水量の監視を行うもの。	熊本市全域	年度当初に報告書を発送し、未提出者に対しては、職員による電話及び訪問にて報告書の提出を促し、地下水採取量の把握に努める。また、大規模採取者や県条例の許可者に対し、かん養計画書や節水計画書等の提出をあわせて依頼するもの。	年度当初に報告書を発送し、未提出者に対しては、職員による電話及び訪問にて報告書の提出を促し、地下水採取量の把握に努める。また、大規模採取者や県条例の許可者に対し、かん養計画書や節水計画書等の提出をあわせて依頼するもの。			熊本地震の影響により予算・人員ともに減少し、事務作業を直接職員が行うことになったが、報告書の回収率が下がらないようにすることが重要である。	継続					無	環境局	水保全課	「知る」再掲
地下水量 保全対策 経費	・ビニール ハウスかん 養対策経費	ビニールハウスが設置された畑地では、雨水が地下へと浸透せず、大半が排水路を通じて域外へと流出する雨水を、連模式ビニールハウスの雨どいで集水された雨水を地下へと浸透させる雨水浸透施設の設置に対し、補助金を交付し普及啓発に努めるもの。	熊本市全域	—	—			廃止	廃止	—	—	—	—	無	環境局	水保全課	

地下水量 保全対策 経費	・雨水貯 留施設助 成経費	雨水貯留施設設置に対し助 成することにより、雨水の有 効利用の促進を図る。	熊本市全 域	雨水の有効利用の促進を図 るため、雨水貯留施設設置 の助成を実施する。	雨水の有効利用の促進を図 るため、雨水貯留施設設置 の助成を実施する。	1,500	1,500	地下水の保全及び水資源の 有効利用のため、今後も雨 水の有効な活用を市民に呼 びかけていく。	継続						無	環境局	水保全課	
地下水量 保全対策 経費	・節水対 策経費	市民協働で節水施策を実施 し、節水型社会形成を計画 的に進めるため、節水市民 運動を展開する。また、将来 を担う子どもたちに水の学習 を通じ、節水意識を定着さ せ、永続的な節水行動を喚 起する。	熊本市全 域	2019年度からは2024年度を 目標に、市民1人1日あたりの 生活用水使用量を改に 210ℓと設定し、年間を通し た節水市民運動を展開す る。特に水使用量の増える7 月、8月を「夏季の節水重点 期間」として取組を強化す る。	2019年度からは2024年度を 目標に、市民1人1日あたりの 生活用水使用量を改に 210ℓと設定し、年間を通し た節水市民運動を展開す る。特に水使用量の増える7 月、8月を「夏季の節水重点 期間」として取組を強化す る。	4,700	4,700	新たに設定する、市民1人1 日あたりの生活用水使用量 を210ℓと設定し、目標の達 成に向け、更なる節水を呼び かけていく。	継続						有	環境局	水保全課	

基本戦略4 創る 生物の生息・生育地(拠点)の創出、生態系ネットワークの向上

I 個別の事業ごとの実施状況

1. 生きものの生息・生育地となる緑地の創出

1) 生物多様性の保全に資する緑化の推進(緑化助成制度における生きものの生息・生育環境創出の視点を組み込む検討等)

事業・取組	細事業	事業・取組の内容(概要)	実施エリア	R1年度の実施状況	R2年度の実施予定	R1事業費 (千円)	R2予算内示額 (千円)	課題・今後の見通し	今後のスケジュール(予定)					数値目標 (別途あれば)	局	課	備考
									H28	H29	H30	R1	R2				
街なかの緑創出事業	市電緑のじゅうたん事業	・市電緑のじゅうたん事業市電軌道敷の緑化を図り、維持管理を実施。	熊本駅前～田崎橋、水道町～花畑町の計935m	・適正な維持管理の実施 芝刈り(7回)、施肥(2回)、 灌水(16回)、人力除草(4回)	・適正な維持管理の実施 芝刈り(3回)、施肥(3回)、 薬剤散布(3回)、灌水(16回)、 人力除草(4回)	10,630	12,094	今後も継続して緑のじゅうたんの適正な維持管理に努める。 散水軌陸車の導入により委託料の大幅な縮減が期待できる。	継続	→				無	環境局	環境共生課	「守る」再掲
街なかの緑創出事業	屋上等緑化経費	・屋上等緑化助成制度 中心市街地の新たな緑の創出とヒートアイランド現象の緩和、CO2の吸収を図るため、屋上、壁面を緑化される方に対し助成制度を設けている。	熊本市内の市街化区域	屋上緑化の助成事業については、復興期間中の事業休止。	屋上緑化は壁面等緑化助成制度として、事業を開始する。	0	1,000	屋上緑化の助成事業については、復興期間中の事業休止へ。	休止	→再開				無	環境局	環境共生課	「守る」再掲
街なかの緑創出事業	緑化推進経費	・公共地緑化事業 地域の核となる学校・公共施設の緑化を実施。	熊本市内小学校	植栽工事については、H28年度の要望調査をもとに、優先度の高い公共施設を選定し実施予定。	廃止	600	0	復興期間中については、H28年度の要望調査をもとに、優先度の高い公共施設を選定し、植栽工事を実施していく。規模は縮小。	縮小実施	→実施				無	環境局	環境共生課	「守る」再掲
街なかの緑創出事業	緑化推進経費	・漱石の森づくり事業 個人住宅や共同住宅又は、事業所に樹木、生垣の植栽を行う民有地の緑化に対して助成を実施。	熊本市全域	継続実施の予定	引き続き、個人住宅・事業所において、樹木・生垣の植栽に対する補助を行う。	4,500	3,500	引き続き、事業のPRを積極的にを行い、生き物の生息・生育地となる緑地の創出に努める。	継続	→800㎡(緑の創出)					環境局	環境共生課	「守る」再掲
街なかの緑創出事業	緑化推進経費	・記念樹配布 結婚、誕生、新築、銀婚といった人生の節目に記念樹を配布。	熊本市全域	R1年度も年1回の配布を予定。	R2年度も年1回の配布を予定。	1,000	750	記念樹配布事業については、今後も継続して行う予定だが、H29年度から年1回の配布実施とする。	継続	→配布数1,000本					環境局	環境共生課	「守る」再掲
街なかの緑創出事業	緑化推進経費	・緑化市民運動 自治会や団体で行う緑化運動に対し、樹木等の材料を提供し、地域での緑化に対する意識の高揚を図る。	熊本市全域	地域の緑化活動は、景観の向上や緑の増量だけでなく、まちづくり・人づくりの素材として、引き続き事業を継続する。	地域の緑化活動は、景観の向上や緑の増量だけでなく、まちづくり・人づくりの素材として、引き続き事業を継続する。	900	500	景観の向上や緑の増量だけでなく、まちづくり・人づくりの素材にも寄与する事業として今後も継続する。	継続	→無					環境局	環境共生課	「守る」再掲

2) 熊本市らしい緑のあり方や、効果的な緑の創出とネットワークの形成の検討(「森の都」の実現に向けた中心部のコアとなる緑地の創出・拡大の検討等)

事業・取組	細事業	事業・取組の内容(概要)	実施エリア	R1年度の実施状況	R2年度の実施予定	R1事業費 (千円)	R2予算内示額 (千円)	課題・今後の見通し	今後のスケジュール(予定)					数値目標 (別途あれば)	局	課	備考	
									H28	H29	H30	R1	R2					
		「森の都」の実現に向けた中心部のコアとなる緑地の創出・拡大の検討等	熊本市全域	緑の基本計画を改定する予定。	R1年度に引き続き、緑化計画を改定する予定	17,000	17,000	緑の基本計画を改定する予定。	－	検討					無	環境局	環境共生課ほか	

2. 生物多様性に配慮した整備の推進

1) 生物多様性に配慮した整備・管理手法の検討(緑化手法ガイドライン等の検討等)

事業・取組	細事業	事業・取組の内容(概要)	実施エリア	R1年度の実施状況	R2年度の実施予定	R1事業費 (千円)	R2予算内示額 (千円)	課題・今後の見通し	今後のスケジュール(予定)					数値目標 (別途あれば)	局	課	備考	
									H28	H29	H30	R1	R2					
		緑化手法等含めた緑の整備・管理手法の検討	熊本市全域	緑の基本計画を改定する予定。	R1年度に引き続き、緑化計画を改定する予定	17,000	17,000	緑の基本計画を改定する予定。	－	検討					無	環境局	環境共生課	

2) 生物多様性に配慮した整備や再整備、管理の推進(多自然川づくりの推進、生物の生息・生育地を保全する農地・用水路の管理、公園などの整備等)

事業・取組	細事業	事業・取組の内容(概要)	実施エリア	R1年度の実施状況	R2年度の実施予定	R1事業費 (千円)	R2予算内示額 (千円)	課題・今後の見通し	今後のスケジュール(予定)					数値目標 (別途あれば)	局	課	備考
									H28	H29	H30	R1	R2				
環境に配慮した河川整備の推進	広域河川整備経費	一級河川健軍川、藻器堀川、鶯川の改修にあたり、多自然川づくりを実施している。	藻器堀川(八反田3丁目付近) 鶯川(東野2丁目付近)	鶯川において河川環境に配慮した河川改修を実施中。	健軍川、藻器堀川において、河川環境に配慮した河川改修を実施予定。	90,000	166,000	事業計画に基づき、河川環境に配慮した河川改修を実施する。	継続	→				無	都市建設局	東部土木センター 河川公園整備課	
環境に配慮した河川整備の推進	広域河川改修経費	二級河川翹川の改修にあたり、多自然川づくりを実施している。	翹川河川区域(西区島崎2丁目～島崎5丁目地先)	河川改修事業においては、市域全体の浸水状況や河川の整備状況を勘案し優先順位を付け実施している。このなかで、R1年度の翹川改修工事を休止し、翌年度以降の実施とした。		0	0	事業計画に基づき、河川環境に配慮した河川改修を実施する。	休止	休止	休止	休止	休止	無	都市建設局	西部土木センター 河川公園整備課	
環境に配慮した河川整備の推進	準用河川改修事業(補助)	準用河川旧天明新川の改修にあたり、多自然川づくりを実施している。	旧天明新川河川区域(南区御幸木部1丁目地先～良町4丁目地内)	事業計画に基づき、河川環境に配慮した河川改修を実施する。		177,000	99,000	事業計画に基づき、河川環境に配慮した河川改修を実施する。	継続	継続	継続	継続	→	無	都市建設局	西部土木センター 河川公園整備課	
災害復旧	公園災害復旧経費	H28年4月に熊本地震で被災した水前寺江津湖公園(上江津地区)において復旧工事を行うもの。	江津湖(上江津地区)	－				－	工事着工	工事完了	－	－	－	無	都市建設局	震災土木施設対策課	
災害復旧	(震災)公設運動施設災害復旧経費	H28年4月に熊本地震で被災したサイクリングロードにおいて復旧工事を行うもの。	江津湖(サイクリングロード)	－				－	工事着工	工事完了	－	－	－	無	都市建設局	震災土木施設対策課	
環境に配慮した水路整備の推進	一般土地改良経費(政策)	水路改良工事において、柵渠や魚巣ブロック等による生態系に配慮した製品の使用を推進している。	熊本市全域	水路整備の実施においては、生態系に配慮した製品(魚巣ブロック・柵渠等)を用いた。	水路整備の実施においては、生態系に配慮した製品(魚巣ブロック・柵渠等)にて整備予定。	172,115	284,120	必要に応じて検討	実施なし	実施	必要に応じて実施	→		無	農水局	農地整備課 北東部農業振興センター 盤整備課 西南部農業振興センター	

環境に配慮した水路整備の推進	団体営農業農村整備事業経費	水路改良工事において、柵渠や魚巢ブロック等による生態系に配慮した製品の使用を推進している。	熊本市東区秋津町沼山津地内	水路整備の実施においては、、生態系に配慮した製品（魚巢ブロック、柵渠等）を用いた。	水路整備の実施においては、、生態系に配慮した製品（魚巢ブロック、柵渠等）を用いて整備予定。	61,477	72,660	事業計画に基づき、生態系に配慮した水路整備を実施する。				工事着工	➡	無	農水局	農地整備課 北東部農業振興センター 基盤整備課	
環境に配慮した水路整備の推進	団体営農地等災害復旧事業	平成28年4月に熊本地震で被災した沈目頭首工の復旧工事を行うもの。	熊本市南区城南町沈目					平成30年3月16日に工事完了。	実施なし	実施	完了	-	-	無	農水局	南農業振興課	

基本戦略5 活かす めぐみの持続可能な利用

I 個別の事業ごとの実施状況

1. 生物多様性と地下水、歴史・文化を活かした魅力の発信

1) 生物多様性の魅力を市内外に発信（地下水や歴史・文化とともに生物多様性を熊本市の魅力と位置づけ、観光等で内外に発信するなど）

事業・取組	細事業	事業・取組の内容(概要)	実施エリア	R1年度の実施状況	R2年度の実施予定	R1事業費 (千円)	R2予算内示額 (千円)	課題・今後の見通し	今後のスケジュール(予定)					数値目標 (別途あれば)	局	課	備考
									H28	H29	H30	R1	R2				
くまもと水ブランド事業	くまもと水ブランド情報発信経費	本市の財産である水を活かした都市ブランドを形成するため、総合的な情報発信や、水遺産制度の推進を図り、地下水都市・熊本をPRする。	熊本市全域(一部県外)	環境局ホームページ内「くまもとウォーターライフ」や、オフィシャルウォーター「熊本水物語」を活用し、関係部署や機関と連携し、熊本の魅力である地下水を総合的にPRした。 また、アジア・太平洋水サミット熊本開催(2020.10.19～20)に向け広報事業を展開した。	環境局ホームページ内「くまもとウォーターライフ」や、オフィシャルウォーター「熊本水物語」を活用し、関係部署や機関と連携し、熊本の魅力である地下水を総合的にPRする。 また、第4回アジア・太平洋水サミット開催(2020.10.19～20)のサイドイベント等を活用し広報事業を展開する。	3,000	1,800	引き続き、ホームページや各種イベント等での情報発信を行うほか、本市来訪者に対しオフィシャルウォーターを配布し、地下水都市・熊本の認知度向上を図る。 関係部署・機関と連携し、県外に熊本の地下水や食、自然などの魅力を発信する。	継続					無	環境局	水保全課	
くまもと水ブランド事業	くまもと水ブランド担い手育成推進経費	くまもと「水」検定やくまもと水守制度の推進により、水保全活動に取り組む人材を育成し、水を活かした都市ブランドの形成を図る。	熊本市中心(検定・水守は対象エリア限定無し、フォーラムは県内高校生)	くまもと「水」検定の実施や水の国高校生フォーラムを開催し、水保全活動に取り組む幅広い世代の人材育成を図った。また、水守に対しても水保全に関する情報提供を行い、それぞれの分野において活用していただき、更に水守の活動の場を拡大させるための仕組みづくりに取り組んだ。	くまもと「水」検定の実施や水の国高校生フォーラムを開催し、水保全活動に取り組む幅広い世代の人材育成を図る。また、水守に対しても水保全に関する情報提供を行い、それぞれの分野において活用していただき、水守の活動の情報交換の場を設ける等仕組みづくりに取り組む。	2,900	3,000	水保全活動に取り組む人材を育成するため、きっかけとなる検定事業について、受検をPRしていくことが課題。	継続					無	環境局	水保全課	
くまもと水ブランド事業	地下水都市熊本空間創出経費	街なか親水空間、名水百選等の水資源の活用整備を図り、水を活かした都市ブランドを形成する。	熊本市全域	熊本市設置の親水施設(5ヶ所)の維持管理を実施する。また、既存水資源整備について、補助金を交付し、水の魅力を活かした空間整備を行なう。	熊本市設置の親水施設(5ヶ所)の維持管理を実施する。また、既存水資源整備について、補助金を交付し、水の魅力を活かした空間整備を行なう。	5,100	5,100	引き続き親水施設の維持管理にあたり、既存水資源整備についても、景観等の周辺環境整備に対し補助を行っていく。	継続					無	環境局	水保全課	
くまもと食の復興PR・ブランド化推進事業		本市の魅力である豊かな自然や地下水から育まれた上質な農水産物のPRを効果的に実施していく。	市内外	イベントの機会やホームページでの発信を通して、本市産農水産物のPRを実施。	イベントの機会やホームページでの発信を通して、本市産農水産物のPRを実施。	43,800	32,000	引き続き、イベントの機会やホームページでの発信を通して、豊かな自然に育まれた上質な本市農水産物の魅力発信を行っていく。	継続					無	農水局	農業政策課(農水ブランド戦略室)	

2. 生物多様性と地下水、歴史・文化を活かした地域づくりの推進

1) 生物多様性とかかわる湧水、地形、歴史・文化など地域の魅力の発掘とこれらを活かした地域づくりの推進

(地域の魅力発掘ワークショップ等、竹林対策と資源の有効活用の検討、フットパス等の資源を活かした地域づくり・観光(エコツーリズム)等)

事業・取組	細事業	事業・取組の内容(概要)	実施エリア	R1年度の実施状況	R2年度の実施予定	R1事業費 (千円)	R2予算内示額 (千円)	課題・今後の見通し	今後のスケジュール(予定)					数値目標 (別途あれば)	局	課	備考
									H28	H29	H30	R1	R2				
観光客受入対策事業	九州自然歩道利用拠点施設管理経費	金峰森の駅みちくさ館を核に周辺の観光資源を活用し金峰山一帯の観光レクリエーション及び地域の振興を図る中で、景観、環境づくりを行っている。	河内地区	平成31年度も指定管理施設として運営。「ホテルまつり」を6月1日に、また、自主事業として、7月に水生生物調査及びEMだんこの投入などを実施した。	金峰森の駅みちくさ館(指定管理施設)の運営において「ホテルまつり」や自主事業イベント等を開催予定。	6,867	6,574	今後も金峰森の駅みちくさ館を核に、金峰山エリアの魅力を広く発信する事業に取り組むことで地域の振興を図る予定。	継続					無	農水局(R1年度事業移管)	農業政策課(森づくり推進室)	
井手の魅力再発見事業	まちづくり推進経費	中央区内を流れる白川や井手への関心を高め、地域のまちづくりに活かしていくことを目的に、大井手をテーマとした学習会やまちづくりウォーク、シンポジウムなどを開催。マップを作成。	白川から大井手	学校や地域の環境活動団体等、民間関係団体との情報共有等の連携、支援を行っている。(次年度以降も、同様に地域等との情報共有を行っていく。)	-	-	-	H29年度をもって、行政発信の事業としては終了。学校や地域の環境団体等の民間団体との連携、支援を行っていく。	継続	実施	終了	-	-	無	中央区役所	中央区まちづくりセンター	
託麻三山散策ウォーキング事業	まちづくり推進経費	歴史ある託麻三山の魅力を発信することを目的とし、地域の団体と協働で散策マップを作成した。マップを基にウォーキングを予定。(地元で史跡めぐりを行っている)	託麻エリア	H30年度と同じく、託麻三山の散策コースを地元団体と共同で整備(繁茂した草や樹木の伐採)した上で、同団体との共催による三山ウォーキングを12月1日(日)に実施した。	地元団体と共同で開催した託麻三山ウォーキング事業は、地域主催で継続して実施。	625	0	地域で大切に守られている自然環境を将来にわたって保全・活用するとともに、周辺住宅地との共存のため、ごみの適正処理や清掃活動などの生活環境の美化に取り組むまちづくりを推進していく予定。	中止	中止	実施	実施	終了	無	東区役所	総務企画課	
まちづくり推進活性化事業	まちづくり推進経費	・お宝マップ作成経費 金峰山系エリアのマップを作成 自然を含めた魅力をマップに掲載	西区	前年度に完成した有明海沿岸地区のエリアマップ「城西情景」を小島、中島・松尾地区全世帯に配布した他、観光客が訪れる、観光案内所(熊本駅・城彩苑・熊本港)に設置した。	在庫がなくなるまで、適宜、必要に応じて配布する。	-	-	西区のエリアマップの作成は平成30年度で終了したが、作成したマップの配布など、どう広報に活かすかが課題。	継続		終了	-	-	無	西区役所	総務企画課	
まちづくり推進活性化事業	まちづくり推進経費	・伝承文化保存継承事業 存続の危機にある無形文化財(神楽)の保存継承のため記録映像を作成。	河内(芳野)	-				過疎化・少子化により若い年代の継承者が揃わないため、存続が危ぶまれる。西区内には4つの神楽があり、H26年度から取り組んでおり、4地域で神楽の記録・保存を終了した。	休止	再開	終了	-	-	無	西区役所	総務企画課	
まちづくり推進活性化事業	まちづくり推進経費	・漱石記念事業 夏目漱石記念年に併せて、小説「草枕」の道歩く事業を実施。往時を偲んで歴史文化に触れ、自然の風景を楽しみながら西区の魅力発信に繋げる。	金峰山エリア	-				夏目漱石記念年がH28年度で終了するのに伴い、本事業もH28年度にて終了。	終了	-	-	-	-	無	西区役所	総務企画課	
西区魅力アップチャレンジプログラム事業	まちづくり推進経費	熊本地震により大きなダメージを受けた「熊本港」の復旧復興状況をPRするとともに、熊本市西区の「地域の宝」として魅力ある熊本港の利用を促進し、賑わい創出を図る。	熊本市内	熊本市の海の玄関口である熊本港で、子どもから高齢者まで参加でき、西区の自然を身近に感じることができる釣り大会を開催した。 参加者: 147名	熊本市の海の玄関口である熊本港で、子どもから高齢者まで参加でき、西区の自然を身近に感じることができる釣り大会を開催予定。	400	200	3年間のみ負担金を交付予定であるため、その後の事業継続が課題。	-	事業コンテストの開催	釣り大会開催	釣り大会開催	釣り大会開催	無	西区役所	総務企画課	

西区魅力アップチャレンジプログラム事業	まちづくり推進経費	・手ぶらで参加できるキャンプを開催。 西区の山の恵みの魅力を発信し、賑わい創出と活性化を図る	金峰山エリア	金峰山少年自然の家の敷地内で、手ぶらで自然に浸り、非日常の空間を味わうことのできるキャンプを開催した。 参加者 1回目:4組14名 2回目:4組10名	金峰山少年自然の家の敷地内で、手ぶらで自然に浸り、非日常の空間を味わうことのできるキャンプを開催予定。	500	400	3年間のみ負担金を交付予定であるため、その後の事業継続が課題	-	-	事業コンテンツの開催	手ぶらでキャンプの開催	手ぶらでキャンプの開催	無	西区役所	総務企画課	
---------------------	-----------	---	--------	--	---	-----	-----	--------------------------------	---	---	------------	-------------	-------------	---	------	-------	--

事業・取組	細事業	事業・取組の内容(概要)	実施エリア	R1年度の実施状況	R2年度の実施予定	R1事業費(千円)	R2予算内示額(千円)	課題・今後の見通し	今後のスケジュール(予定)					数値目標 (別途あれば)	局	課	備考
									H28	H29	H30	R1	R2				
校区の恵まれた自然や豊かな農産物、歴史、文化を活かし、交流人口の増加、農業振興	まちづくり推進経費	・西区探訪ウォーキング開催経費 地域の魅力を再発見するとともに健康増進を目的に開催。地元食材を使った料理や地域特産の農水産物も提供。		-				-	終了	-	-	-	-	無	西区役所	総務企画課	
西区金峰山系エリアまちづくり事業	まちづくり推進経費	・金峰山系エリア魅力発信事業 金峰山系エリアの魅力を発信する事業を行政と地域が協働で発信。年2回イベントを実施。	金峰山エリア	11月23日にウォーキングを実施した。	継続して11月23日にウォーキングを実施予定。	800	800	今後も金峰山エリアの魅力を発信する事業を継続予定。	継続	➡				無	西区役所	河内まちづくりセンター・河内交流室	
	なし	・ほたる連携会議の開催(予算なし) ほたるが生息している校区を対象に、ほたるが生息する環境の保全等の情報交換の場を設定し、環境保全に努める。		-				-	終了	-	-	-	-	無	西区役所	西部公民館	
まちづくり推進事業	南区まちづくり推進経費	・フットパスによるまちづくり支援事業 H27年度に旧城南町及び川尻地域において、里山や田園地帯、古い町並みなど、その地域のありのままの風景を楽しみ、寄り道・道草しながらゆっくり歩くフットパスコースを作製。 地域が運営主体となるフットパスによるまちづくりを支援する。	城南町地域及び川尻地域	地域が主体となって、フットパスを活用したまちづくりを実施。「フットパスマップ」を区役所及び各まちづくりセンター等で配布。	地域が主体となって、フットパスを活用したまちづくりを実施。「フットパスマップ」を区役所及び各まちづくりセンター等で配布。	0	0	ボランティアガイドの活用など地域が主体となって、フットパスを活用したまちづくりを実施。	休止	再開	終了	-	-	無	南区役所	総務企画課	
まちづくり推進事業	南区まちづくり推進経費	・南区自然を活かした地域連携事業 南区の豊かな自然を次世代に継承することを目的として、区民が自然と親しむイベントを開催する「南区を自然でつなぐ実行委員会」に対して支援(負担金)を実施	南区	令和2年(2020年)2月2日(日)に加勢川河川敷で「穴掘り大会」を実施。当日は125名が参加した。	負担金による支援は行わない。	0	0	R2年度事業については実行委員会の中で、協議していく。事業を実施する場合は、広報や当日の準備等の支援を行っていく。	継続	➡		終了	-	無	南区役所	総務企画課	
まちづくり推進事業	南区まちづくり推進経費	・「南区を知ろう」(情報発信・共有)事業 南区の自然・風景・名所・歴史などを掲載した「まち歩き手帖」を活用して、地域の隠れた資源や魅力の再発見につなげる。	南区全域	まち歩き手帖を区役所やまちづくりセンター等で配布。	まち歩き手帖第3版の改訂版を作成する予定であったが、在庫にまだ余裕があるため、令和2年度は実施しない。引き続き、まち歩き手帖の区役所やまちづくりセンター等での配布を行う。	0	0	まち歩き手帖は第1版～第4版まであり、第3版と第4版については在庫に余裕がある状態。在庫状況次第で改訂版を作成していく。	継続	➡				無	南区役所	総務企画課	
まちづくり推進事業	北区まちづくり推進経費	・北区幸せ絵巻活用事業 北区の自然・風景、食、歴史・文化などを掲載した、まち歩きマップを活用して、地域の隠れた資源や魅力の再発見につながる取組を実施。	北区全域	平成29年度で終了(引き続き、「北区幸せ絵巻」を各まちづくりセンター等で配布を行う。)	平成29年度で終了(引き続き、「北区幸せ絵巻」を各まちづくりセンター等で配布を行う。)	-	-	「まち歩き」は終了する。今後は、引き続き『北区幸せ絵巻』を配布し、ボランティアガイドの活用など地域が主体となった取組を検討していく。	中止	活用	終了	-	-	無	北区役所	総務企画課	

2) 生物多様性と地下水、歴史・文化を活かした水前寺江津湖公園の利活用のあり方の検討・推進

事業・取組	細事業	事業・取組の内容(概要)	実施エリア	R1年度の実施状況	R2年度の実施予定	R1事業費(千円)	R2予算内示額(千円)	課題・今後の見通し	今後のスケジュール(予定)					数値目標 (別途あれば)	局	課	備考
									H28	H29	H30	R1	R2				
水前寺江津湖公園利活用・保全計画の策定	全国都市緑化フェア開催推進経費	水前寺江津湖公園の利活用及び保全の方針についてまとめた計画を策定する。	水前寺江津湖公園一帯	協議会及び部会での議論、市民意見を踏まえた上で、利活用及び保全に関する計画を策定する。	計画に位置づけた個別事業を実施する。	2,050	8,000	関係課との調整、市民全体のコンセンサス形成	中断	素案の作成	協議会立ち上げ	計画の策定	事業実施	無	都市建設局	公園課	

3. 生物多様性と地下水を活かした農林水産業の推進

1) 生物多様性及び地下水に配慮した農水産業の推進(グリーン農業の推進、漁場環境の保全と資源管理等)

事業・取組	細事業	事業・取組の内容(概要)	実施エリア	R1年度の実施状況	R2年度の実施予定	R1事業費(千円)	R2予算内示額(千円)	課題・今後の見通し	今後のスケジュール(予定)					数値目標 (別途あれば)	局	課	備考
									H28	H29	H30	R1	R2				
環境に配慮した農業及び安全・安心な農産物づくりの推進	環境保全型農業総合支援対策経費(環境保全型農業直接支払事業)	化学肥料や化学農薬を5割以上低減する取組等に対する支援	市内全域	地球温暖化防止等に効果の高い環境保全型農業に取り組む農業者に対して支援を行った。	地球温暖化防止等に効果の高い環境保全型農業に取り組む農業者に対して支援を行う。	6,592	6,592	継続した支援を行うことで、農業が有する環境保全機能を一層発揮させる。	継続	➡				無	農水局	農業支援課 各農業振興課	
環境に配慮した農業及び安全・安心な農産物づくりの推進	熊本市夢と活力ある農業推進事業(安全安心・環境対策支援事業)	化学肥料や化学農薬低減技術への取組に対する補助	市内全域	市独自の補助事業である「夢と活力ある農業推進事業」により天敵等の生物農薬導入等に係る経費を支援することで、化学肥料及び化学農薬使用量の低減を推進した。	市独自の補助事業である「夢と活力ある農業推進事業」により天敵等の生物農薬導入等に係る経費を支援することで、化学肥料及び化学農薬使用量の低減を推進する。	41,000の内数	41,000の内数	今後も化学肥料や化学農薬低減技術への取組に対して支援することで、引き続き安全・安心な農産物づくりを推進する。	継続	➡				無	農水局	農業支援課 各農業振興課	
環境に配慮した農業及び安全・安心な農産物づくりの推進	熊本市夢と活力ある農業推進事業(環境対策整備事業)	土づくりや堆きゅう肥の製造・利用拡大等を目的とした施設機械導入に対する補助	市内全域	市独自の補助事業である「夢と活力ある農業推進事業」により堆肥処理施設整備等に係る経費を支援することで、家畜排せつ物の適正処理・利用促進を図った。	市独自の補助事業である「夢と活力ある農業推進事業」により堆肥処理施設整備等に係る経費を支援することで、家畜排せつ物の適正処理・利用促進を図る。	41,000の内数(再掲)	41,000の内数(再掲)	今後も土づくりや堆きゅう肥の製造・利用拡大等を目的とした施設機械導入に対して支援する。	継続	➡				無	農水局	農業支援課 各農業振興課	

漁業生産振興事業	漁場環境保全対策推進経費	漁協が行う水域環境・漁場環境保全に関する取組を支援することで、ノリ、アサリ、ハマグリなどの主要水産物の安定的な生産を図るとともに、魚類・甲殻類の幼稚仔の生息しやすい環境を維持する。	有明海（市管内地先漁場）	-				事業内容が重複するため、水産多面的機能発揮対策事業へ統合	実施	廃止	-	-	-	無	農水局	水産振興センター	「守る」再掲
漁業生産振興事業	水産多面的機能発揮対策事業	活動組織（漁業者等）が行う耕うん、保護区設定、生物除去等の水域環境・漁場環境保全に関する取組を支援することで、ノリ、アサリ、ハマグリなどの主要水産物の安定的な生産を図るとともに、魚類・甲殻類の幼稚仔の生息しやすい環境を維持する。	有明海（管内地先漁場）等	前年度の結果及び実績を踏まえて計画された平成31年度事業を各活動組織が実施予定。				当該事業は国の補助事業であり、事業期間がR2年度までとなっていること。（R2年度以降の事業継続が不透明）	実施	➡				無	農水局	水産振興センター	「守る」再掲

2) 生物多様性や地下水とのつながりをアピールした地元農水産物のブランド化及び地産地消・消費拡大の推進（グリーンツーリズム、6次産業化による消費拡大の推進等）

事業・取組	細事業	事業・取組の内容（概要）	実施エリア	R1年度の実施状況	R2年度の実施予定	R1事業費 （千円）	R2予算内示額 （千円）	課題・今後の見通し	今後のスケジュール（予定）					数値目標 （別途あれば）	局	課	備考
									H28	H29	H30	R1	R2				
まちづくり推進事業	まちづくり推進経費	・子ども農山漁村交流事業 小中学生の子どもたちを対象に宿泊体験教室を活用した地域文化体験や農業体験を実施し、西区農産物の魅力の情報発信につなげる。	西区	まちづくり推進事業として西区フェスタを実施する中で、地元農産物の消費拡大、情報発信のために農産物等を販売する。（3月21日・22日実施） 当該事業の枠組みではないが、子どもたちに地元農水産物の理解を深めてもらうためみかん収穫体験、JA選果場の受入れやみかんなどの直売をJAと連携して実施している。	まちづくり推進事業として西区フェスタを実施する中で、地元農産物の消費拡大、情報発信のために農産物等を販売する。（3月中旬実施予定） 当該事業の枠組みではないが、子どもたちに地元農水産物の理解を深めてもらうためみかん収穫体験、JA選果場の受入れやみかんなどの直売をJAと連携して実施している。	0	0	西区フェスタでの農産物等の販売は継続していく。 当該事業の枠組みではないが、JAと連携したみかん等の直販及び子どもたちにみかんの学習をしてもらうために県・JAと連携した選果場の受入れを継続していく。	実施	➡				無	農水局	西南部農業振興センター農業振興課	
まちづくり推進事業	まちづくり推進経費	・北区農産物の朝市 北区の豊富な農産物を知って頂くため、地域の新鮮野菜や果物、特産品等を朝市で販売。生産者と消費者の交流及び地産地消の促進を図る。	北区内	-				北区の農産物のPRのほか、生産者と消費者の交流、地産地消の促進のために始めたこの事業もH28年度で一応の区切り。 H29年度以降は、事業廃止の方向。	実施	廃止	-	-	-	無	北区役所（農水局）	総務企画課（北農業振興課）	
まちづくり推進事業	北区まちづくり推進経費	・グリーン・ツーリズムinこどもまつり 北区の農業や地域の魅力を知ってもらうために農作物の収穫等を親子で体験してもらうイベントを実施する。	北区内	平成29年度で終了				収穫体験等の事業は終了するが、今後も道の駅「すいかの里 植木」等を活用して北区の農業の魅力を発信していく。		実施	終了	-	-	無	北区役所	総務企画課	
水産業地域交流促進事業	市民と水産業の交流促進事業	・水産物フェアの開催 本市の水産物（ノリ・アサリ・ハマグリ等）の認知度向上と消費拡大を図る。	びぶれす広場	令和2年3月2日、3日にびぶれす広場において水産物フェアを開催する予定であったが、コロナウイルス感染症の流行拡大にともない中止することとなった。	令和2年5月19日、20日にびぶれす広場において水産物フェアを開催予定。	537	637	来年度から漁業後継者主体の事業展開を図るために、開催時期をノリ養殖業の閉期である5～6月頃に変更。以後も事業を活性化していくために、他部署との連携・調整を進めていく。	継続	➡				無	農水局	水産振興センター	